

米沢市雪対策総合計画

＜改定版＞（案）

（平成 30 年度～令和 9 年度）

平成 30 年 5 月策定
令和 5 年 月改定
米 沢 市

目 次

第1章 計画の基本的事項	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画改定について	2
3 計画改定体制	6
4 計画の位置付け	7
5 計画の期間	7
6 計画の進行管理	7
第2章 計画の体系	9
1 基本方針	9
2 施策の柱立て	9
3 目標の設定	10
4 施策の体系	10
第3章 施策の体系	11
施策1 雪に強く住みよいまちづくりの推進	11
施策2 高齢者・障がい者などが冬期間安心して生活できる体制づくり	15
施策3 市民協働による雪処理の体制づくり	17
施策4 豪雪時・豪雪災害時における対策の充実	19
施策5 親雪・利雪・学雪の推進	20
施策一覧表	23
参考資料	26
資料1 雪対策に関する各種データ	27
○ 総人口の推移	27
○ 世帯の家族類型別割合の推移	27
○ 最大積雪深・累計降雪量・苦情要望件数	28
○ 令和4年度の苦情・要望の内容	28
○ 車道・歩道除雪延長	29
○ 除排雪対策経費決算額	29

○ 市民アンケート調査結果	30
資料2 米沢市雪対策総合計画検討委員会	31
○ 米沢市雪対策総合計画検討委員会設置要項	31
○ 米沢市雪対策総合計画検討委員会委員名簿	32
○ 検討委員会開催経過	33
資料3 アンケート調査結果	34
○ アンケート概要及び結果	34
○ アンケート調査票	49

第1章 計画の基本的事項

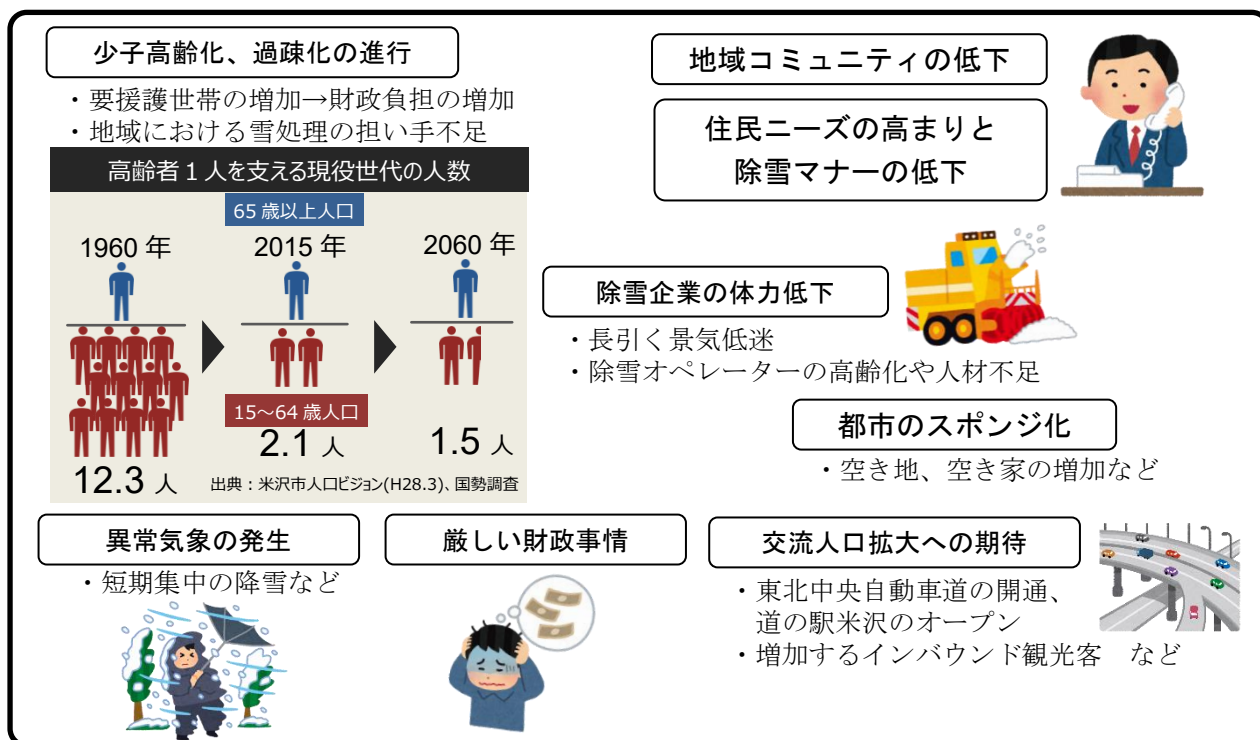
1 計画策定の趣旨

国では、平成18年11月に「豪雪地帯対策基本計画」を変更し、実施すべき対策として「雪処理の担い手の確保」や「消融雪施設の整備」等のほか「市町村雪対策計画の策定」を追加しました。

本市では、昭和58年4月に「米沢市克雪まちづくり計画」を策定し、道路除排雪を中心とした取組を推進していましたが、少子高齢化・核家族化の進行、過疎化の進行、快適な冬季環境に対する住民ニーズの高まり等により、計画策定時に想定した社会状況に変化が生じていました。

また、新総合計画策定のためのアンケート調査結果（平成26年10月）では、雪対策が最重要課題として挙げられているにもかかわらず、その満足度は低いとの結果が報告されました。

このような状況を踏まえて、将来に向けた雪対策の基本的な考え方と施策の方向性を明示し、これまでの雪対策に加え、雪に関する様々な施策間の相乗効果を図りながら雪対策を総合的に実施していくことを目的として、平成30年度に「米沢市雪対策総合計画（平成30年度～令和9年度）」を策定しました。



個別の雪対策の延長では
多様な課題への対応が困難

持続可能な安全・安心のまちづくり推進のため、
雪に関する総合的な計画を策定

2 計画改定について

平成30年度から、計画を基に様々な取組を行ってきたところですが、策定から5年が経過したことから、これまでの施策の実施状況を検証するとともに、社会情勢や冬季環境の変化、令和5年2月に実施した市民アンケート結果などを踏まえながら、計画の骨格は維持しつつ、必要な見直しを行うものです。

(1) 過去5年間の実施状況と市民アンケート結果に基づく今後の課題

①過去5年間の施策の実施状況

1 雪に強く住みよいまちづくりの推進

1-1 効率的な除排雪の推進

- ・委託業者ごとに点在する除雪路線を集約化
- ・生活道路として機能していない除雪路線の廃止
- ・除雪指定路線の見直し
- ・GPS導入に向けた積算方法の見直し

1-2 雪処理施設の確保

- ・流雪溝の計画的な整備

1-3 雪害防止対策の充実

- ・関係機関と連携し油流失事故防止対策の実施
- ・管理不全空き家所有者に対する適正管理の呼びかけと指導

1-4 安全な道路交通の確保

- ・排雪を受け入れるための雪捨て場の確保
- ・地区に対する雪押場の必要性のPR
- ・町内会等が実施する私道除雪費用の一部助成
- ・除排雪協力会が実施する排雪費用の一部助成

1-5 安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及促進

- ・安全な雪下ろしと除雪作業方法を広報等により周知
- ・出前講座で安全な雪処理方法の説明
- ・除雪業者リストの作成・周知

2 高齢者・障がい者が冬期間安心して生活できる体制づくり

2-1 高齢者・障がい者の支援の充実

- ・除雪援助員の派遣
- ・雪下ろし費用の一部助成
- ・住宅前への押雪の軽減
- ・必要なサービスを受けられるよう民生委員、児童委員との連携

2-2 健康づくりの推進

- ・介護予防教室の開催、いきいき100歳体操（住民主体の通いの場）の実施

3 市民協働による雪処理の体制づくり

3-1 地域除排雪体制の充実

- ・除排雪協力会の組織化
- ・除雪モニター制度
- ・地域の支え合いによる除排雪事業の本格運用

3-2 雪処理の担い手の確保

- ・除雪従事功労者の表彰

4	豪雪時・豪雪災害時における対策の充実
4-1	豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実 ・雪処理マニュアルの充実・更新
5	親雪・利雪・学雪の推進
5-1	雪を利用した観光振興 ・上杉雪灯籠まつりの開催 ・米沢の冬の魅力を伝えるため台湾での展示会の開催 ・米沢エリアスキー場協議会との連携による誘客キャンペーン
5-2	雪氷熱エネルギー等の調査研究 ・取組状況なし
5-3	雪に親しむ教育活動の推進 ・副読本「わたしたちの米沢」による学習 ・小中学生の雪まつりへの参加の呼びかけ
5-4	雪に親しむ地域活動の推進 ・コミセン事業に対する支援
5-5	雪国文化の継承・発信 ・雪菜料理コンテストの開催

②市民アンケート結果（令和5年2月実施）と今後の課題

	主な意見や傾向	求められる対策
道路の除排雪	・交差点などの見通しが悪い ・道路除雪が悪く車が走りにくい ・押雪の処理が大変 ・道路のデコボコやわだちの解消が必要 ・道路幅の確保が必要	・大雪時の集中的な除排雪 ・効率的な除排雪の推進 ・除雪オペレーターの除雪技術の伝承等 ・押雪の軽減
自宅の雪処理	・高齢化により、自力での除雪や雪下ろしが困難となっていく	・除雪や雪下ろしの支援の充実 ・克雪住宅の普及促進
雪に関する支援制度	・利用できる方が限られている ・手続きが面倒 ・町内会や除排雪協力会などの団体を対象とした制度の認知度が低い ・高齢者等除雪援助員派遣事業と高齢者等雪下ろし助成事業に重点を置くべき	・助成制度の要件緩和や手続きの簡素化 ・各種制度の効果的な周知 ・高齢者等に対しての制度の充実

	主な意見や傾向	求められる対策
地域内の除排雪活動	・住民同士で除排雪に関する課題を話し合う機会がない ・住民同士での除排雪活動をこれまでに行ったことはない ・地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行うことが必要	・コミュニティ機能の向上 ・地域における共助意識の醸成
これから取り組んでいくべきこと	・高齢者や障がい者などに対する支援体制の強化 ・雪に強い地域づくりへの支援	・各種支援制度の充実 ・市民、事業者、行政がそれぞれの役割分担のもと協働により雪対策に取り組む必要がある

(2) 社会情勢や冬季環境の変化

①国の取組

- ・国では、令和4年度に豪雪地帯対策特別措置法の一部を改正する法律の施行、近年の豪雪地帯をとりまく課題への対応等を踏まえた「豪雪地帯対策基本計画」の変更が閣議決定され、「豪雪地帯対策基本計画」では、「交通、通信等の確保」「生活環境施設等の整備」などの重点事項に、「除排雪の担い手の確保と除排雪体制の整備」、「親雪・利雪による個性豊かな地域づくり」の2つを追加しました。

②本市の状況

- ・少子高齢化、人口減少、核家族化、過疎化、快適な冬季環境に対する住民ニーズの高まりが、計画策定時より進行しています。H27とR2の人口を比較すると、0～64歳は減少していますが、65歳以上は増加しています。
- ・近年は短時間での降雪量が多く、令和4年1月には山形新幹線が大沢－関根間で立ち往生するなど、記録的な大雪に見舞われる機会が増える傾向にあります。

年齢別人口の比較						
	昭和55年度	平成27年度	令和2年度	増減		
				S55とH27 比較	S55とR2 比較	H27とR2 比較
0～14歳	19,915人	10,561人	8,881人	△9,354人	△11,034人	△1,680人
15～64歳	62,817人	50,637人	46,225人	△12,180人	△16,592人	△4,412人
65歳以上	10,091人 (11%)	24,322人 (28%)	25,259人 (31%)	14,231人	15,168人	937人
総数	92,823人	85,520人	80,365人	△7,303人	△12,458人	△5,155人

高齢者世帯の比較						
	平成2年度	平成27年度	令和2年度	増減		
				H2とH27 比較	H2とR2 比較	H27とR2 比較
単身高齢者世帯	960世帯	2,976世帯	3,300世帯	2,016世帯	2,340世帯	324世帯
高齢者のみ世帯	1,757世帯	5,453世帯	6,174世帯	3,696世帯	4,417世帯	721世帯

出典：国勢調査

(3) 見直しのポイント

①主な施策に関する見直しの視点

アンケート結果や社会情勢等を踏まえて以下の視点について取組を検討します。

- ・道路等の効率的な除排雪の推進

除雪運行管理システムの導入や関係自治体との連携による効率的な道路の除排雪のほか、除雪オペレーターの除雪技術の伝承と担い手確保などの取組を推進していきます。また、雪押場の確保や交通渋滞への対応も進めていきます。

- ・高齢者や障がい者などへの支援の充実

高齢者や障がい者への支援を充実するとともに手続きの簡素化を進めるほか、支援の対象を一人親世帯へ広げていきます。

- ・除排雪支援の効果的な情報の発信

市が行っている様々な支援の情報を一体的に取りまとめ、効果的な情報発信をしていきます。

- ・共助意識の醸成

地域内でのコミュニケーション力を高めるなど、共助意識向上への取組を推進していきます。

- ・雪に強い地域づくり

本計画の雪対策の取組を着実に実行することで、雪に強い地域を目指していきます。

②その他

- ・豪雪地帯安全確保緊急対策交付金について

個別の施策とは別に、令和3年度に国で新たに創設した『豪雪地帯安全確保緊急対策交付金※』の活用を検討していきます。

※豪雪地帯安全確保緊急対策交付金とは、豪雪地帯において除排雪時の死傷事故が多発していることを踏まえ、民地の除排雪作業時等の死傷事故を防止するために、将来を見据えた戦略的な方針の策定と、持続可能な除排雪体制の整備等に取り組む自治体を支援する制度。

- ・SDGs（持続可能な開発目標）について

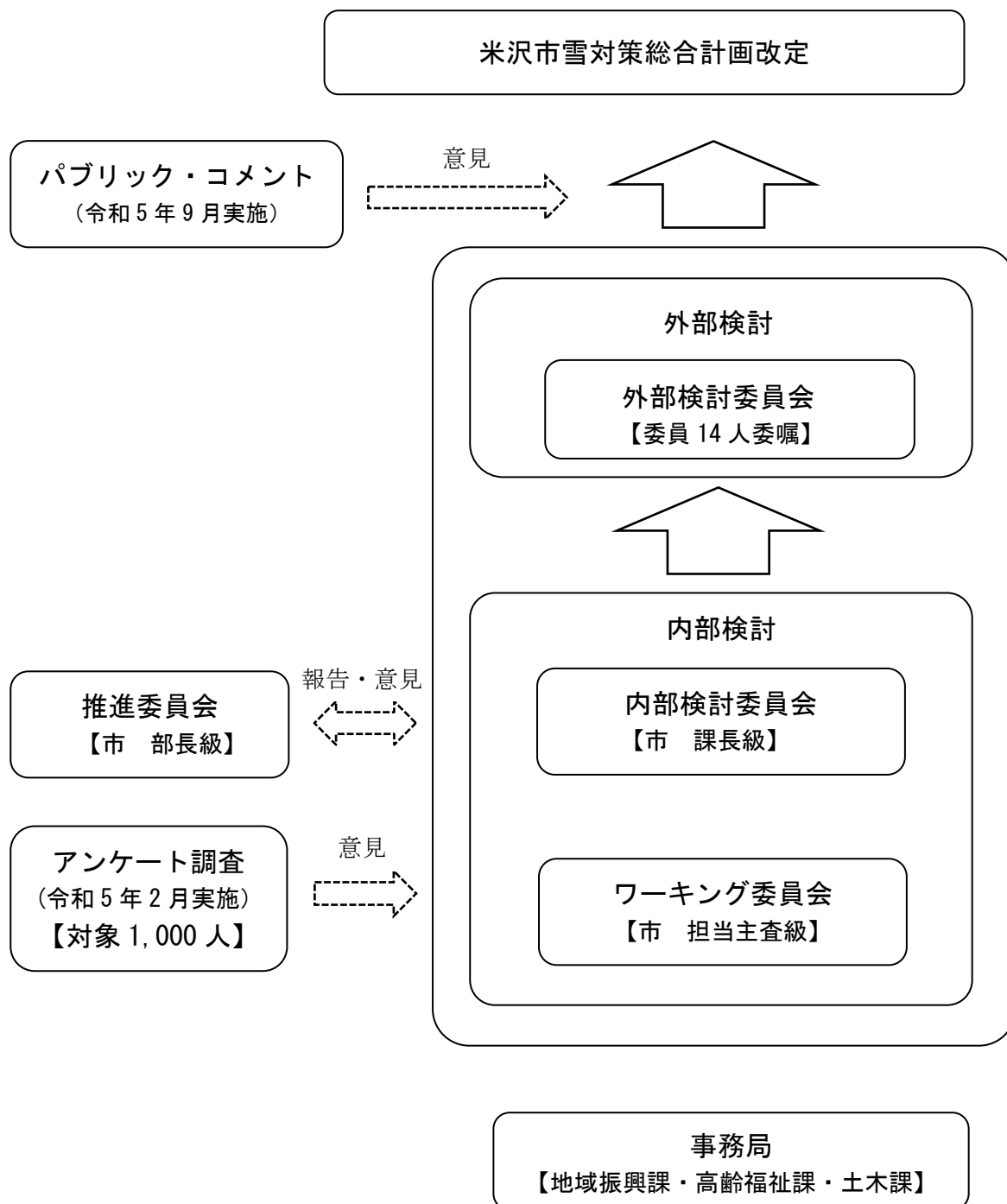
各施策の取組に当たり、SDGsの達成を意識したものとします。



3 計画改定体制

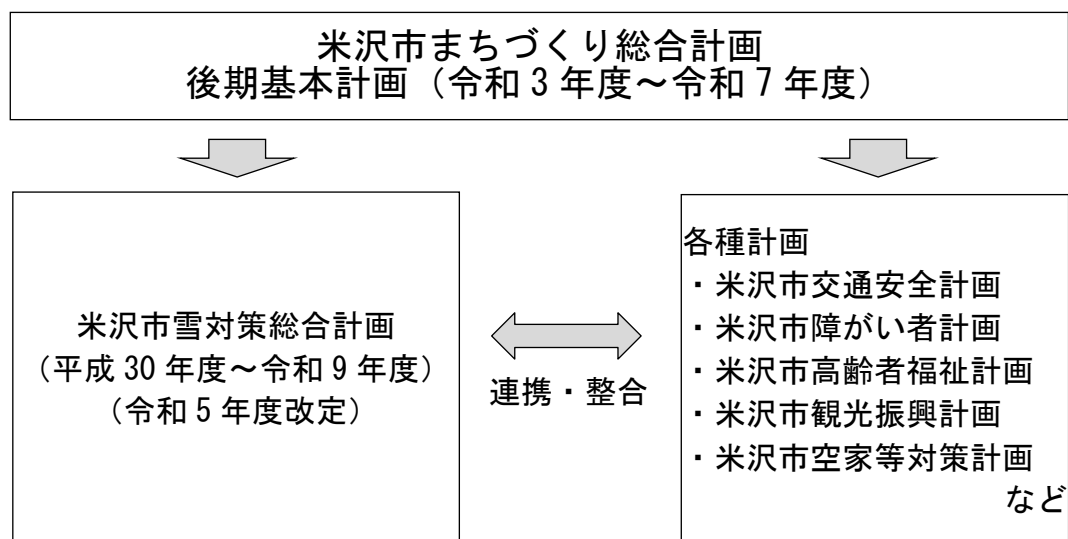
計画の改定（中間見直し）に当たっては、庁内検討組織により横断的に取り組むとともに、雪対策に関する学識経験者、除雪事業者、福祉関係団体等から構成される「米沢市雪対策総合計画検討委員会」を設置し、多様な視点から検討を行いました。

また、より多くの市民の御意見を取り入れた計画とするため、アンケート調査、パブリック・コメントを実施しました。



4 計画の位置付け

この計画は、「米沢市まちづくり総合計画」を上位計画とし、個々の施策の展開に当たっては、関係する各種計画との整合性を図ります。



5 計画の期間

平成30年度から令和9年度までの10年間とし、中間で見直しを行います。

その他、今後の社会経済情勢等の変化や施策の進捗状況などにより、必要に応じ適切に見直しを行うとともに、令和9年度に全面的な見直しを行います。

6 計画の進捗管理

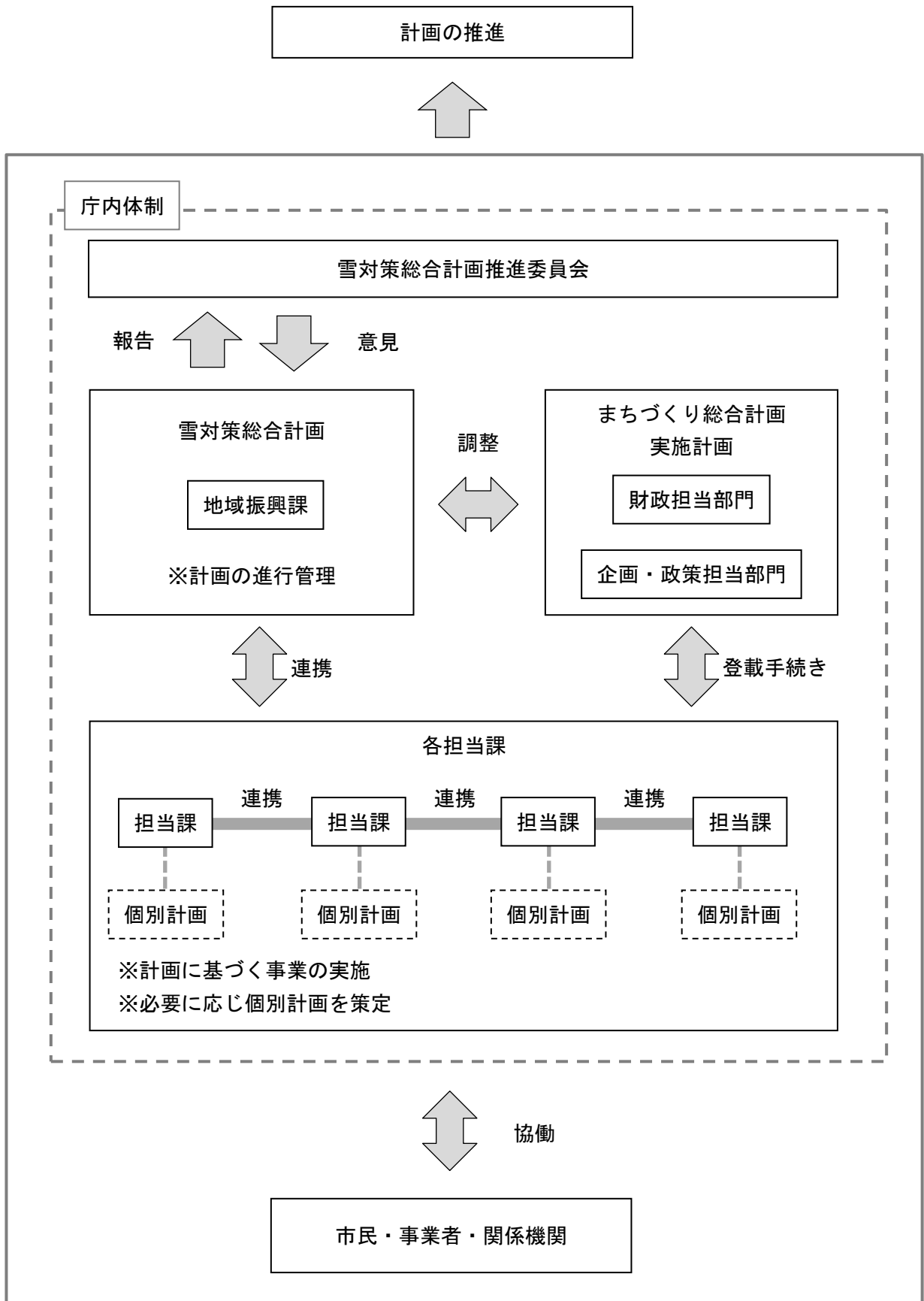
計画で定める基本方針の実現を目指し、市民・事業者・行政が一丸となって雪対策の取組を総合的に推進していきます。

また、計画の着実な推進を図るため、主要な施策ごとに目標数値を定め、適宜評価・検証を行いながら進捗管理を行います。なお、前期5年間の評価に基づき、計画期間の最終年度である令和9年度の目標数値を新たに設定します。

各担当部署においては、計画に基づき事業を実施するとともに、必要に応じ個別計画を策定し雪対策を推進していきます。

さらに、計画改定後も、各担当部署の代表から構成される「雪対策総合計画推進委員会」において、計画の進捗状況や達成状況等に応じた事業の検討や見直し等を行います。

図表 計画の推進体制



第2章 計画の体系

1 基本方針

本市は、特別豪雪地帯に指定され、冬期間の日常生活や経済活動をする上で、雪対策は必要不可欠なものとなっています。

しかし、少子高齢化が進み、ライフスタイルが多様化する中、これまでのような雪対策には限界があり、市民・事業者・行政がそれぞれの役割分担のもと協働で推進していく必要があります。また、地域住民同士が協力して雪対策に取り組むなど、状況に応じた効率的な除排雪体制の確立が求められます。

また、雪は、冬期間の生活に不便を強いる面がある一方で、水資源や観光資源として環境や産業に大きな恵みをもたらしています。

これらのことから、本計画の基本方針を次のとおり定めています。

**「雪と向き合い、共に支え合いながら、
安心して暮らせる雪に強いまち・米沢」**

2 施策の柱立て

本計画に掲げた基本方針の実現を目指し、次の5つの方向性に基づく雪対策を推進します。

1：雪に強く住みよいまちづくりの推進

効率的な除排雪体制の推進や計画的なハード整備等により、雪に強く住みよいまちづくりを推進します。

2：高齢者・障がい者などが冬期間安心して生活できる体制づくり

少子高齢化の進む社会情勢に対応するため、高齢者や障がい者などの状況に応じて、冬期間無理をしないで生活できる体制を整備します。

3：市民協働による雪処理の体制づくり

市民・事業者・行政が役割を分担し、協働で雪対策を実施していくための体制を整備します。

4：豪雪時・豪雪災害時における対策の充実

豪雪時や豪雪災害時において、安全で安心な市民生活や円滑な経済活動を確保するための体制と対応の充実を図ります。

5：親雪・利雪・学雪の推進

雪や冬の恵みを活かした取組の充実や、雪国に暮らす誇りや愛着が育まれる活動を推進します。

3 目標の設定

施策の柱立てごとに「重要業績評価指標（K P I）」を定め、計画期間の最終年度である令和9年度の目標値を設定し、施策の進捗状況を毎年度確認していきます。

4 施策の体系

基本方針	施策の柱立て	施策の方向性
雪と向き合 いて暮ら せ共 に雪に 支え あ い ま ち が ら 米 沢	1 雪に強く住みよいまちづくりの推進	1-1 効率的な除排雪の推進
		1-2 雪処理施設の確保
		1-3 雪害防止対策の充実
		1-4 安全な道路交通の確保
		1-5 安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及促進
	2 高齢者・障がい者などが冬期間安心して生活できる体制づくり	2-1 高齢者・障がい者などの支援の充実
		2-2 健康づくりの推進
	3 市民協働による雪処理の体制づくり	3-1 地域除排雪体制の充実
		3-2 雪処理の担い手の確保
	4 豪雪時・豪雪災害時における対策の充実	4-1 豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実
	5 親雪・利雪・学雪の推進	5-1 雪を利用した観光振興
		5-2 雪氷熱エネルギー等の調査研究
		5-3 雪に親しむ教育活動の推進
		5-4 雪に親しむ地域活動の推進
		5-5 雪国文化の継承・発信

第3章 施策の体系

凡例	<table><tr><td>市民</td><td>：市民が取り組むべき事項</td></tr><tr><td>地域</td><td>：地域が取り組むべき事項</td></tr><tr><td>行政</td><td>：市が取り組むべき事項</td></tr></table>	市民	：市民が取り組むべき事項	地域	：地域が取り組むべき事項	行政	：市が取り組むべき事項
市民	：市民が取り組むべき事項						
地域	：地域が取り組むべき事項						
行政	：市が取り組むべき事項						

施策1 雪に強く住みよいまちづくりの推進

■ ■ 現状と課題 ■ ■

- 本市は、特別豪雪地帯に指定され、冬期間の日常生活や経済活動をする上で、道路の除排雪等の克雪対策は必要不可欠なものとなっていますが、市民の満足度は低い状況です。人口減少が進む中、限られた予算と時間で異常降雪へ対応するため、ICTの活用や除雪事業者間の連携など、効率的な除排雪が求められます。
- 社会情勢や冬季環境の変化により、住民ニーズが複雑・多様化する中、市が行っている支援を効果的に発信する必要があります。
- 冬期間でも安全・安心な市民生活を確保するためには、道路や住宅等における消融雪施設や雪害防止対策の充実を図る必要があります。
- 安全で快適な生活環境を確保するためには、道路の除排雪のみならず、雪捨て場や雪押場の確保、歩行空間の確保、交通環境の改善など、地域に応じたきめ細かな対応が求められます。
- 冬期間の暮らしには、住宅の屋根の雪下ろしや敷地内の除排雪等の作業など、多くの労力と時間を伴い、事故につながる可能性もあることから、より安全な住宅への改良や安全な雪処理方法について呼びかけていく必要があります。

■ ■ 施策での取組 ■ ■

1-1 効率的な除排雪の推進

1-1-1 除排雪業務委託の全体的な見直し 行政

除雪路線の見直しやシステム導入に伴う精算方法の見直しにより丁寧な除雪を目指します。(変更)

1-1-2 除雪運行管理システムの導入推進 行政

除雪車等へのGPS端末を搭載することで除排雪状況を把握し、効率的な除排雪を推進します。(拡充)

1-1-3 除雪計画の策定 行政

除雪事業を円滑に実施するため除雪計画を策定します。

1-1-4 関係機関との連携による除雪の推進 行政

山形県及び隣接する自治体と除雪業務の相互委託を行い、効率的な除雪を実施します。(変更)

1-2 雪処理施設の確保

1-2-1 流雪溝の整備促進 行政

冬期間の快適な市民生活を確保するため、流雪溝の整備を推進します。

1-2-2 米沢駅前融雪機器についての検討 行政

米沢駅前の融雪について、従来の冷媒を使用しない融雪機器に更新することを検討します。

1-2-3 コミセン等公共施設の無落雪化等の検討 行政

今後整備する公共施設を雪下ろしの必要のない無落雪型にすること等を検討します。

1-3 雪害防止対策の充実

1-3-1 防雪柵、なだれ防止対策推進 行政

防雪柵を整備し、地吹雪による道路等の吹きだまり防止や視程障害の緩和を図ります。

1-3-2 地下水保全及び地盤沈下防止 市民 行政

米沢地区地下水利用対策協議会と協力し、消雪用の地下水の揚水量を必要最小限になるように啓発活動を行います。

1-3-3 油流出事故防止対策 市民 行政

油流出事故が発生した際には、河川への流入など環境への影響がないかを調査すると同時に、原因者へ誤流出防止の指導を行うほか、広報での啓発を行います。

1-3-4 空き家対策の推進 市民 行政

管理不全の空き家の所有者に対して、指導等を行うと共に広報などを利用し広く一般に適正な管理を呼びかけます。

1-3-5 農業被害防止対策（農免道路除雪） 行政

果樹の枝折れ等を防止するため、樹園地の作業道がつながる農免道路の除雪を行い、作業の円滑化を図ります。

1-4 安全な道路交通の確保

1-4-1 雪捨て場の確保 行政

道路の排雪や市民等から搬出される排雪を受け入れるため、雪捨て場を確保します。

1-4-2 町内との連携による雪押場の設置 地域 行政

地域の公園や空き地等の雪押場としての活用を支援策も含めて検討します。（拡充）

1-4-3 私道除雪への助成事業 市民 地域 行政

冬期間の交通を確保するため、私道除雪に係る費用の一部を市が助成します。

1-4-4 除排雪協力会による排雪への助成事業 地域 行政

除排雪協力会が実施する排雪費用の一部を助成します。

1-4-5 通学路の安全確保 市民 地域 行政

通学路となっている道路の幅出しや交差点の除排雪等に係る合同安全点検を実施します。

降雪期の様々な気象条件に対応するための通学路の安全パトロール体制を確立します。

通学路への落雪などが想定される建物等所有者に対して、降雪期前に適切な管理の協力を要請します。

1-4-6 効率的な除排雪に対応した道路環境の確保 行政

道路の整備の際は効率的な除排雪作業が出来るよう配慮します。

1-4-7 公共交通の確保 行政

バス停の除雪や降雪時の遅延対策など、路線バス等の公共交通の安定した運行確保に努めます。(変更)

1-4-8 大雪時の渋滞緩和 市民 行政

大雪時における主要道路の優先的除雪、公共交通の計画運休、時差出勤などについて検討します。(新規)

1-5 安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及推進

1-5-1 安全な雪処理方法の周知 市民 行政

広報等により安全な雪下ろし作業や除雪作業方法を周知します。

1-5-2 出前講座による安全な雪処理方法の体験 市民 行政

市民の要請に応じ、出前講座で安全な雪処理方法を体験する機会を作ります。

1-5-3 雪下ろし業者等リストの作成・周知 行政

雪下ろし業者等リストを作成・周知し、事故防止を図ります。

1-5-4 除排雪支援の効果的な情報発信 行政

雪に関する市の支援等を取りまとめて周知します。(新規)

1-5-5 雪下ろし作業の負担が少ない住宅の普及促進 市民 行政

克雪住宅への改修支援を継続するとともに、利用促進に向けた PR を実施します。(新規)

— ■ ■ 取組方向に係る重要業績評価指標（K P I） ■ ■ —

No	成果指標名	現状値 の年度	現状値	指標値 (R9)	担当課
1	雪対策全般について満足に感じている人の割合 (R1 市民満足度調査)	R1	23.0%	50%	地域振興課
2	空き家の除去費用に対する補助金交付による解体件数 (H26 からの累計)	R4	累計 51 件	累計 106 件	建築住宅課
3	通学路の危険個所調査の実施回数	R4	1 回	1 回	学校教育課
4	通学路合同安全点検年間実施回数	R4	2 回	2 回	学校教育課
5	雪による死亡事故発生件数	R4	0 件	0 件	防災危機管理課
6	冬期間における市民バス(市街地循環路線)の 30 分を超える遅延回数	R4	7 回	0 回	地域振興課



除雪作業



排雪作業



空き家からの落雪

施策2 高齢者・障がい者などが冬期間安心して生活できる体制づくり

■■ 現状と課題 ■■

- 高齢者や障がい者世帯、一人親世帯など、冬期間において支援を必要とする世帯にとっては、積雪による自宅周辺の雪寄せや屋根の雪下ろし作業などの雪処理作業が困難になっています。さらに、高齢化が進むにつれて支援が必要な方が増えていくことが予想されることから、冬期間においても安全・安心に生活できるような支援が必要です。
- 冬期間は積雪や気温の低下とともに自宅に引きこもりがちとなり、体が不自由な方にとっては運動不足による心身の機能の低下が懸念されるため、健康づくりを推進していく必要があります。

■■ 施策での取組 ■■

2-1 高齢者・障がい者などの支援の充実

2-1-1 除雪援助員の派遣 行政

冬期間においても支障なく自立した生活が営めるように、高齢者・障がい者世帯に除雪援助員を派遣するとともに、除雪援助員派遣の支援を実情に合わせて見直します。(拡充)

2-1-2 雪下ろし費用の助成 行政

自力で雪下ろしができない一人暮らしの高齢者・障がい者世帯に、雪下ろし費の一部を助成するとともに、雪下ろし費用の助成を実情に合わせて見直します。また、一人親世帯の助成について検討します。(拡充)

2-1-3 押雪軽減支援制度 地域 行政

市と事業者との協働により、道路除雪に伴う高齢者・障がい者世帯の住宅前への押雪軽減を図ります。また、高齢者等雪下ろし助成事業の登録申請時に押雪軽減希望の有無の確認を行います。(拡充)

2-1-4 民生委員・児童委員との連携 地域 行政

支援を必要とする高齢者・障がい者世帯が必要なサービスを受けられるよう、地域の見守りを担っている民生委員・児童委員と連携を図ります。

2-2 健康づくりの推進

2-2-1 介護予防事業 行政

高齢者の運動機能向上や閉じこもりの予防等を図り、健康的に過ごしていただくため、冬期間も含めた年間を通しての介護予防教室を促進します。

2-2-2 障がい者を対象とした通所サービス事業 行政

障がい者の就労訓練や閉じこもり予防のための居場所を確保する事業として、冬期間も含めた年間を通しての事業を促進します（就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型、生活介護等）。

■ ■ 取組方向に係る重要業績評価指標（K P I） ■ ■

No	成果指標名	現状値 の年度	現状値	指標値 (R9)	担当課
1	冬期間に不安を感じる高齢者の割合※ (雪対策に関するアンケート)	R4	22.7%	20%	高齢福祉課
2	除雪等の支援を必要としている障がい者の 割合(障がい者アンケート)	R4	32%	20%	社会福祉課
3	介護予防教室の委託事業者数	R4	25 箇所	28 箇所	高齢福祉課
4	いきいき 100 歳体操における冬期間活動団 体の割合 (週 1 回の住民主体の通いの場)	R4	93.9%	100%	高齢福祉課

※雪対策に関するアンケート問 3 の項目 1,3,6,7,14 における 60 歳以上の回答率



介護予防教室



施策3 市民協働による雪処理の体制づくり

■ ■ 現状と課題 ■ ■

- 少子高齢化、核家族化の進展やライフスタイルの変化等に伴い、家庭や地域で共に支え合う機能が弱体化していることから、地域内での共助意識の醸成に努めていく必要があります。
- 冬期間も安全・安心に暮らしていくためには、市民、事業者、行政がそれぞれの役割分担を再認識し、協働による雪対策の取組を進める必要があります。
- 住民ニーズが複雑・多様化する中で快適に冬を過ごすためには、市民全体で除雪ルールを守るなどマナー向上に向けた周知を行う必要があります。
- 雪処理の担い手としての除雪ボランティアの確保に努めていく必要があります。
- 職業の多様化や高齢化の進展により、除雪オペレーターの確保が困難になっているうえ、除雪オペレーターの除雪技術の伝承などが望まれています。

■ ■ 施策での取組 ■ ■

3-1 地域除排雪体制の充実

3-1-1 除排雪協力会の組織化推進 地域 行政

地域との協力により除排雪協力会の組織化を推進します。

3-1-2 除雪モニター制度 地域 行政

各コミュニティセンターに対し、降雪状況の情報提供の協力を依頼し、地域の実情に応じた除雪を実施します。

3-1-3 雪に関する情報提供 行政

各地区での説明会や広報等により雪に関する様々な情報の発信を強化し、冬の暮らしの安全確保や除雪に関するルールやマナー等の啓発を進めていきます。

デジタル技術を活用し、問合せ等のスムーズな対応に努めます。(拡充)

3-1-4 地域共助による除排雪体制の普及促進 市民 地域 行政

住民同士の助け合いにより除排雪を行う体制づくりの促進を図ります。(拡充)

3-2 雪処理の担い手の確保

3-2-1 除雪ボランティア制度 市民 行政

米沢市社会福祉協議会では、除雪ボランティア事業について、現行制度の充実を図っていきます。また市では、SNS で除雪ボランティア事業について広報し、ボランティアの確保に協力します。(変更)

3-2-2 除雪オペレーター勉強会 行政

除雪技術を伝承するために、除雪機械の操作技能研修や安全運転の勉強会を実施

します。(拡充)

3-2-3 除雪従事功労者表彰制度 行政

長年にわたり本市の除雪作業に従事された方を功労者として表彰します。

3-2-4 除雪オペレーター育成支援 行政

除雪オペレーターの人材を確保するため、資格取得に係る費用の一部を市が補助します。(新規)

3-2-5 地域の支え合い意識の醸成 市民 地域 行政

雪処理における共助体制を充実するため、日ごろから地域における支え合いの意識醸成を図ります。(新規)

■ ■ 取組方向に係る重要業績評価指標 (K P I) ■ ■

No	成果指標名	現状値 の年度	現状値	指標値 (R9)	担当課
1	除排雪協力会の組織数	R4	508 団体	538 団体	土木課
2	除雪ボランティアの登録者数(実人数)	R4	244 人	300 人	社会福祉課
3	除雪オペレーター育成支援事業利用者数	R4	2 人	10 人	土木課
4	地域の支え合いによる除排雪事業に取り組む団体数	R4	9 団体	15 団体	地域振興課



除雪ボランティア



除雪ボランティア

施策4 豪雪時・豪雪災害時における対策の充実

■ ■ 現状と課題 ■ ■

- 積雪や地吹雪による交通機関の混乱、空き家等の倒壊、農林業への被害など、豪雪時は市民生活に大きな影響を及ぼします。こういった事態に備え、異常降雪時においても市民が安全・安心に生活できるよう、体制の構築と迅速な対応が求められます。

■ ■ 施策での取組 ■ ■

4-1 豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実

4-1-1 豪雪対策本部の設置 行政

豪雪時に迅速な応急対策が展開できるよう、必要に応じ豪雪対策本部を設置し、国・県及び関係機関と情報を共有しながら全庁的に雪害に対応します。

4-1-2 雪害処理マニュアルの作成 行政

雪害発生時に迅速な処理を行うため、雪害処理マニュアルの充実・更新を行います。

4-1-3 小・中学校における積雪時避難経路の確保と避難訓練 行政

小・中学校における積雪時の避難経路の確保及び避難訓練（火災・地震等）を計画的に実施します。



すれ違いが困難な車道



家屋の倒壊



雪の重みによる倒木

施策5 親雪・利雪・学雪の推進

■ ■ 現状と課題 ■ ■

- 雪は、生活に不便を強いる面がある一方で、上杉雪灯籠まつりなど、冬期間における貴重な観光資源として活用されています。雪国ならではの魅力を活かし、海外からの観光客も視野に入れた観光振興を図る必要があります。
- 地球環境に対する関心が高まりを見せる中、雪の冷熱エネルギー等の利活用について期待が高まっています。
- 子どもたちに雪国の歴史、文化、冬の楽しさを伝える機会を提供し、雪国に暮らす誇りと愛着が育まれる教育活動を推進する必要があります。
- 冬季のイベント等の機会を提供し、雪に親しみ、地域住民の親睦を図り、主体的な地域づくりに寄与する必要があります。
- 雪国文化を継承し、活力ある雪国づくりを推進する必要があります。

■ ■ 施策での取組 ■ ■

5-1 雪を利用した観光振興

5-1-1 冬季イベントの開催 行政

上杉雪灯籠まつり等の雪を活用したまつりを継続するとともに、雪国の魅力を伝えるイベント等の開催により、冬期間の観光誘客を推進します。

5-1-2 国内外への情報発信 行政

冬の魅力を積極的にアピールし、訪日外国人旅行者の増加を図るため、SNS等での情報発信や多言語によるチラシや案内板等を作製します。

5-1-3 冬のスポーツツーリズム推進

市内のスキー場や関係団体と連携し、ウインタースポーツの活性化を通じた冬季の観光振興を図ります。 行政

5-1-4 雪の魅力を活用した教育旅行の推進 行政

スキーや雪遊び等のコースを取り入れた教育旅行を推進します。

5-2 雪氷熱エネルギー等の調査研究

5-2-1 地下水熱等を利用した融雪システムの普及促進 行政

限りある資源を有効活用するため、地下水熱等を利用した融雪システムの普及促進を図ります。(変更)

5-2-2 雪氷熱エネルギーに関する調査研究の推進 行政

雪室、雪冷房等、雪のもつ冷熱エネルギーの利用促進に向けた調査研究を推進します。

5-3 雪に親しむ教育活動の推進

5-3-1 副読本「わたしたちの米沢」による学習 行政

小学校3・4年社会科において、社会科副読本「わたしたちの米沢」を使用した、雪からくらしを守る取組や雪を楽しむ行事についての学習を行います。

5-3-2 小・中学生の雪まつりへの積極的な参加 市民 行政

上杉雪灯籠まつりへの参加や、地域の雪まつりへの積極的な参加を呼びかけます。

5-4 雪に親しむ地域活動の推進

5-4-1 雪に親しむことをテーマとした交流活動支援 地域 行政

雪に親しみ、地域住民の親睦を深めるための冬のイベント等が継続されるよう、事業に対する支援を行います。

5-4-2 やまがた雪文化マイスター制度※の活用 市民 行政

やまがた雪文化マイスターを講師に迎え、自主事業を行います。

5-5 雪国文化の継承・発信

5-5-1 雪国ならではの食文化の発信 行政

雪の中で育つ全国でも珍しい「雪菜」の栽培等、本市の魅力PRに努めながら雪国の食文化の継承を推進します。

■ ■ 取組方向に係る重要業績評価指標（KPI） ■ ■

No	成果指標名	現状値 の年度	現状値	指標値 (R9)	担当課
1	上杉雪灯籠まつりの入込み客数	R4	101,000 人	162,000 人	観光課
2	スキー場の入込み客数	R4	71,500 人	87,000 人	観光課
3	地下水熱等を利用した融雪施設数	R4	1 箇所	3 箇所	環境生活課
4	雪に親しむことをテーマとした交流活動の参加者数	R4	1,666 人	5,970 人	コミュニティ推進課
5	やまがた雪文化マイスター制度※を活用した事業実施件数	R4	0 件	1 件	コミュニティ推進課

※やまがた雪文化マイスター

山形県が認定する、雪国の文化や冬の楽しさを伝える人材（個人・団体）のこと。マイスター活動の推進により、雪に親しむ気運を醸成し、「雪」に対する発想の転換を図る。



上杉雪灯籠まつり（雪灯籠）



上杉雪灯籠まつり（竹あかり）



キラキラ大作戦イルミネーション



雪菜

施策一覧表

凡例 ◎：主体的に実施
○：支援・助成・周知

施策の柱立て１ 雪に強く住みよいまちづくりの推進

施策の方向性 → 主な施策	市民	地域	行政	担当課
1-1 効率的な除排雪の推進				
1-1-1 除排雪業務委託の全体的な見直し			◎	土木課
1-1-2 除雪運行管理システムの導入推進			◎	土木課
1-1-3 除雪計画の策定			◎	土木課
1-1-4 関係機関との連携による除雪の推進			◎	土木課
1-2 雪処理施設の確保				
1-2-1 流雪溝の整備促進			◎	土木課
1-2-2 米沢駅前融雪機器についての検討			◎	環境生活課
1-2-3 コミセン等公共施設の無落雪化等の検討			◎	施設所管課
1-3 雪害防止対策の充実				
1-3-1 防雪柵、なだれ防止対策推進			◎	土木課
1-3-2 地下水保全及び地盤沈下防止	◎		○	環境生活課
1-3-3 油流出事故防止対策	◎		○	環境生活課
1-3-4 空き家対策の推進	◎		○	建築住宅課
1-3-5 農業被害防止対策（農免道路除雪）			◎	農政課
1-4 安全な道路交通の確保				
1-4-1 雪捨て場の確保			◎	土木課
1-4-2 町内との連携による雪押場の設置		◎	○	土木課
1-4-3 私道除雪への助成事業	◎	◎	○	土木課
1-4-4 除排雪協力会による排雪への助成事業		◎	○	土木課
1-4-5 通学路の安全確保	◎	◎	◎	土木課 建築住宅課 学校教育課
1-4-6 効率的な除排雪に対応した道路環境の確保			◎	土木課
1-4-7 公共交通の確保			◎	地域振興課
1-4-8 大雪時の渋滞緩和	◎		◎	総務課 地域振興課 土木課
1-5 安全な雪下ろし作業及び除雪作業の普及推進				
1-5-1 安全な雪処理方法の周知	◎		○	防災危機管理課
1-5-2 出前講座による安全な雪処理方法の体験	◎		○	防災危機管理課
1-5-3 雪下ろし業者等リストの作成・周知			◎	建築住宅課
1-5-4 除排雪支援の効果的な情報発信			◎	地域振興課
1-5-5 雪下ろし作業の負担が少ない住宅の普及促進	◎		○	建築住宅課

施策の柱立て 2 高齢者・障がい者などが冬期間安心して生活できる体制づくり

施策の方向性 → 主な施策	市民	地域	行政	担当課
2-1 高齢者・障がい者などの支援の充実				
2-1-1 除雪援助員の派遣			◎	社会福祉課 高齢福祉課
2-1-2 雪下ろし費用の助成			◎	社会福祉課 高齢福祉課
2-1-3 押雪軽減支援制度		◎	○	社会福祉課 高齢福祉課 土木課
2-1-4 民生委員・児童委員との連携		◎	○	社会福祉課 高齢福祉課
2-2 健康づくりの推進				
2-2-1 介護予防事業			◎	高齢福祉課
2-2-2 障がい者を対象とした通所サービス事業			◎	社会福祉課

施策の柱立て 3 市民協働による雪処理の体制づくり

施策の方向性 → 主な施策	市民	地域	行政	担当課
3-1 地域除排雪体制の充実				
3-1-1 除排雪協力会の組織化推進		◎	○	土木課
3-1-2 除雪モニター制度		◎	○	土木課
3-1-3 雪に関する情報提供			◎	防災危機管理課 土木課
3-1-4 地域共助による除排雪体制の普及促進	◎	◎	○	地域振興課 社会福祉課 高齢福祉課
3-2 雪処理の担い手の確保				
3-2-1 除雪ボランティア制度	◎		○	社会福祉課
3-2-2 除雪オペレーター勉強会			◎	土木課
3-2-3 除雪従事功労者表彰制度			◎	土木課
3-2-4 除雪オペレーター育成支援			◎	土木課
3-2-5 地域の支え合い意識の醸成	◎	◎	○	コミュニティ推進課

施策の柱立て 4 豪雪時・豪雪災害時における対策の充実

施策の方向性 → 主な施策	市民	地域	行政	担当課
4-1 豪雪時・豪雪災害時の体制と対応の充実				
4-1-1 豪雪対策本部の設置			◎	防災危機管理課
4-1-2 雪害処理マニュアルの作成			◎	防災危機管理課
4-1-3 小・中学校における積雪時避難経路の確保と避難訓練			◎	学校教育課

施策の柱立て 5 親雪・利雪・学雪の推進

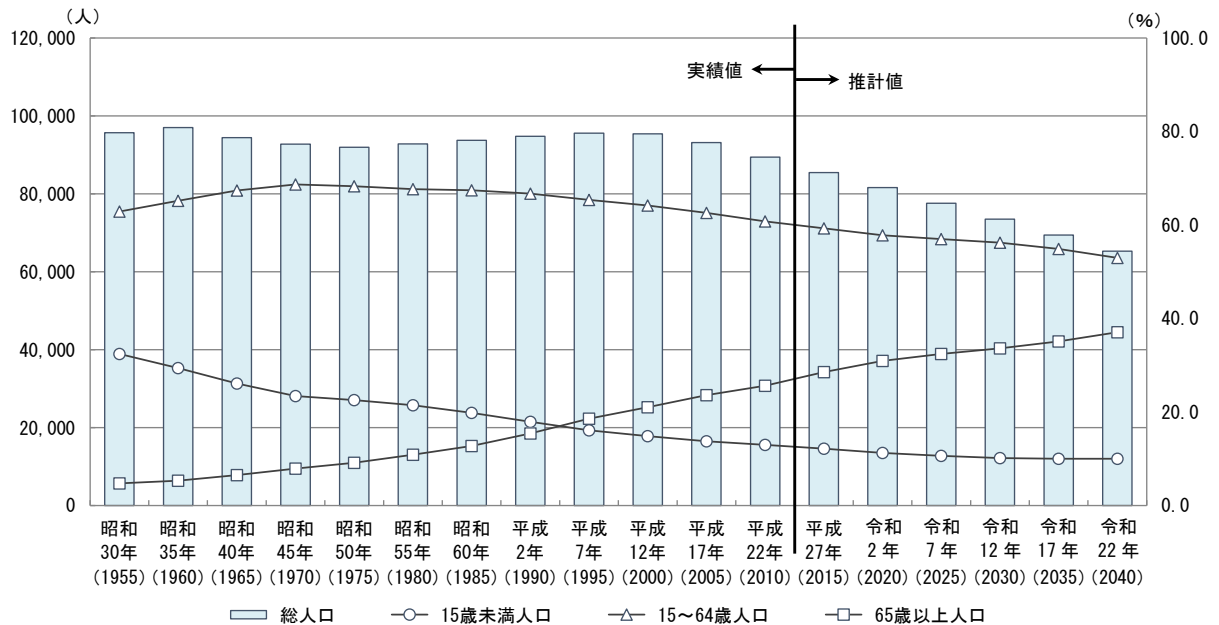
施策の方向性 → 主な施策		市民	地域	行政	担当課
5-1 雪を利用した観光振興					
5-1-1	冬季イベントの開催			◎	観光課
5-1-2	国内外への情報発信			◎	観光課
5-1-3	冬のスポーツツーリズム推進			◎	観光課
5-1-4	雪の魅力を活用した教育旅行の推進			◎	農政課 観光課
5-2 雪氷熱エネルギー等の調査研究					
5-2-1	地下水熱等を利用した融雪システムの普及促進			◎	環境生活課
5-2-2	雪氷熱エネルギーに関する調査研究の推進			◎	環境生活課 農政課
5-3 雪に親しむ教育活動の推進					
5-3-1	副読本「わたしたちの米沢」による学習			◎	学校教育課
5-3-2	小・中学生の雪まつりへの積極的な参加	◎		○	学校教育課
5-4 雪に親しむ地域活動の推進					
5-4-1	雪に親しむことをテーマとした交流活動支援		◎	○	コミュニティ推進課
5-4-2	やまがた雪文化マイスター制度の活用	◎		○	コミュニティ推進課
5-5 雪国文化の継承・発信					
5-5-1	雪国ならではの食文化の発信			◎	農政課

参考資料

資料 1 雪対策に関する各種データ

○ 総人口の推移

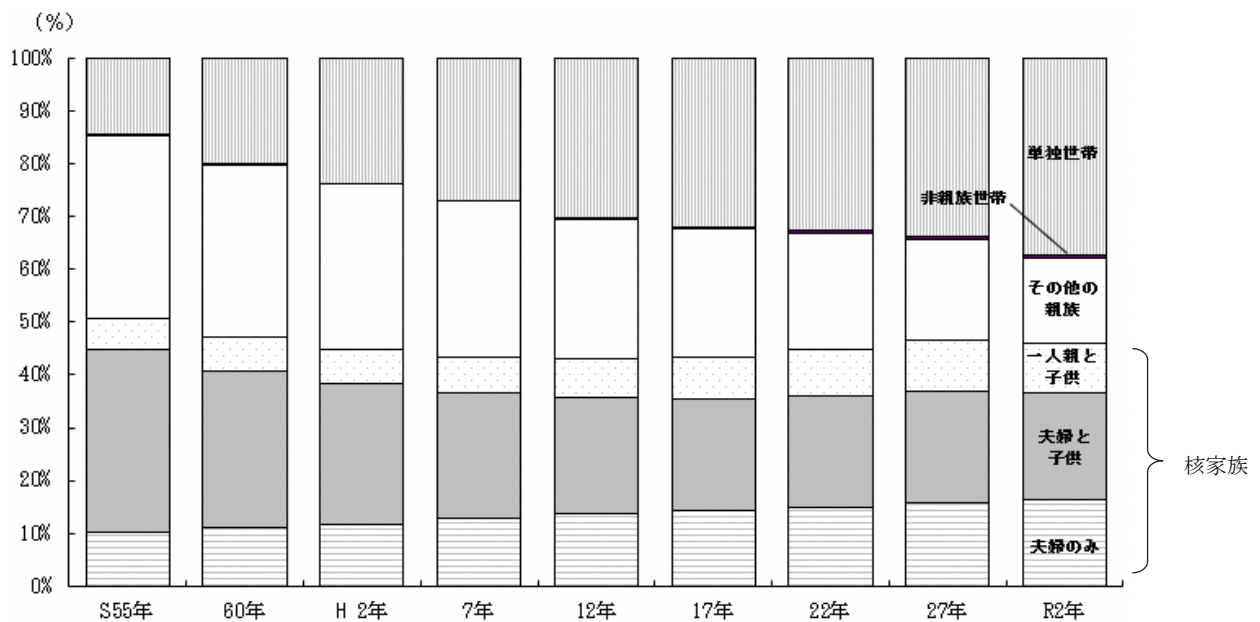
少子高齢化が進んでおり、今後その傾向がさらに進んでいくことが予想されます。



【出典】米沢市人口ビジョン（平成28年3月）

○ 世帯の家族類型別割合の推移

核家族や単独世帯が増えており、家族形態が変化しています。

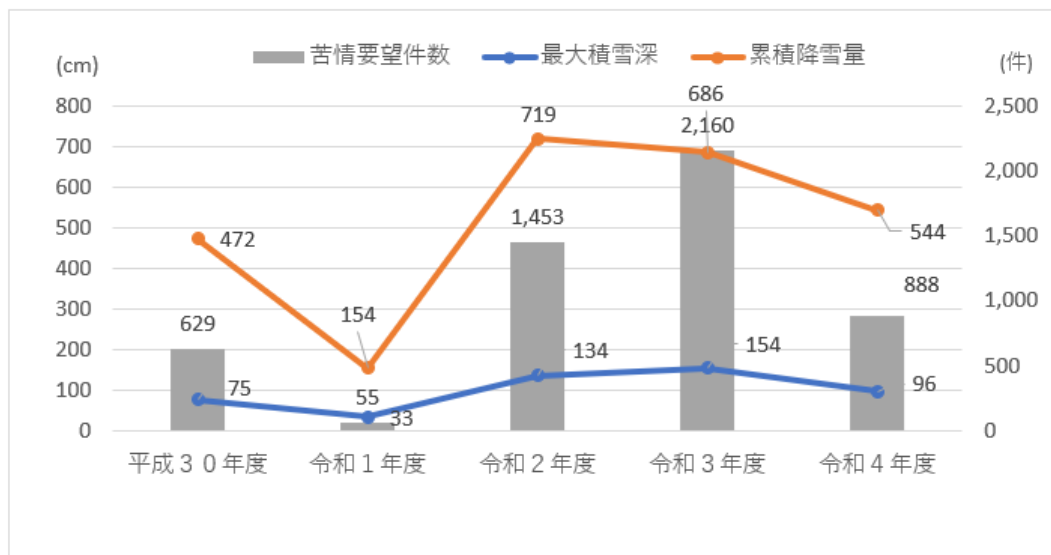


【出典】国勢調査

○ 最大積雪深・累計降雪量・苦情要望件数

積雪が多いほど苦情・要望が多くなる傾向にあります。

○最大積雪深、累計降雪量、苦情要望件数

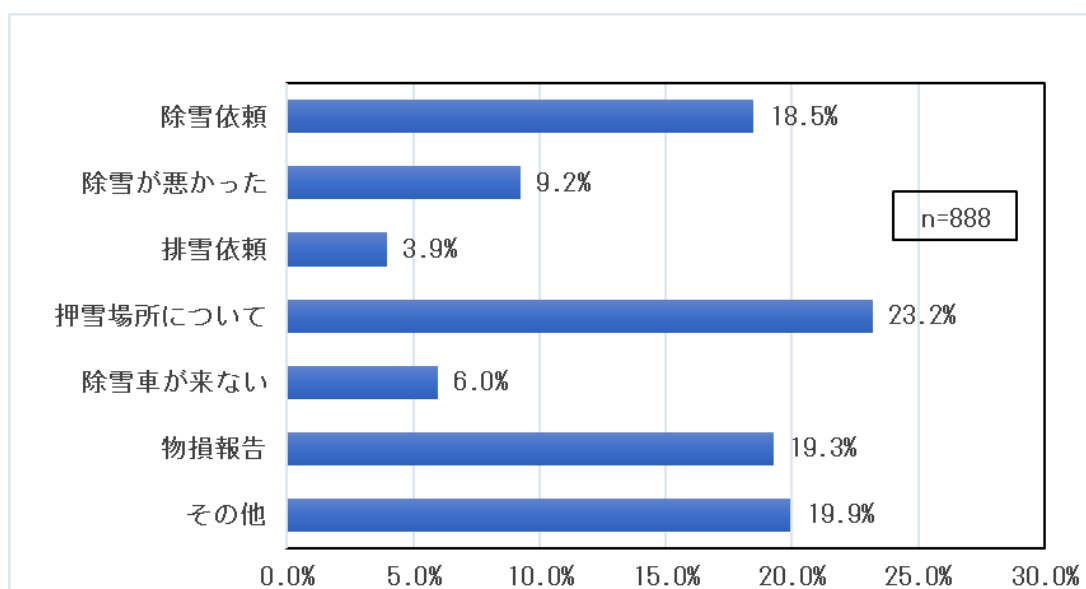


【出典】市土木課

○ 令和4年度の苦情・要望の内容

除雪に関する依頼（ざけ取り、圧雪取り、交差点処理等）が一番多い状況です。

（土木課に電話等で苦情・要望があった内容の分類別集計）



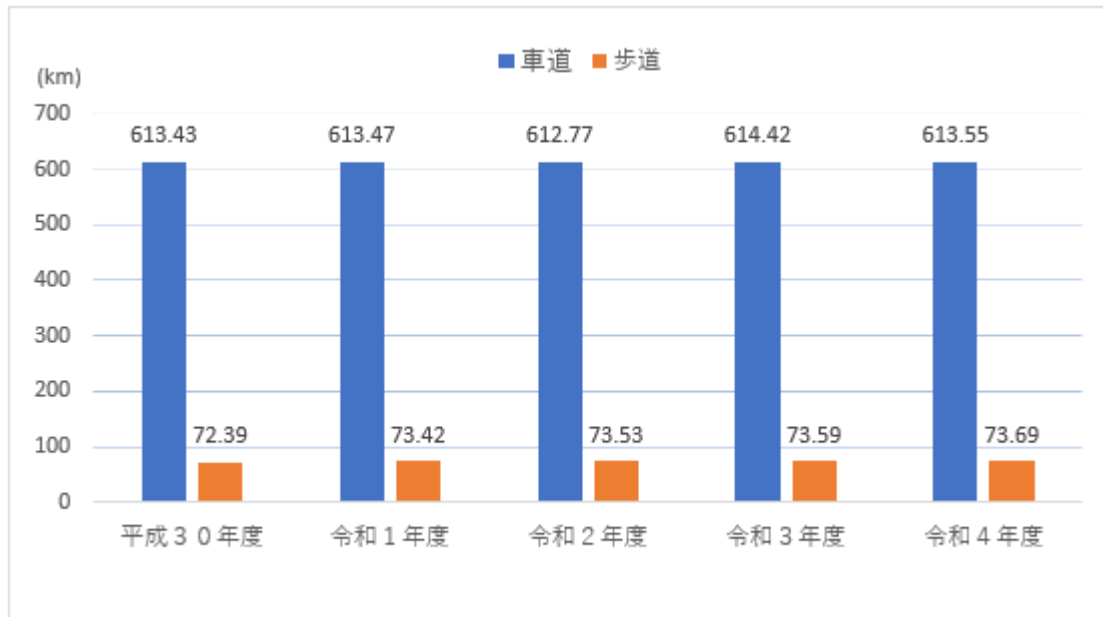
※その他の内容

- ・排雪の日時を教えてほしい
- ・除雪時間を早くしてほしい
- ・県道の除雪に関すること
- ・流雪溝の水量が少ない
- ・春の道あけをしてほしい など

【出典】市土木課

○ 車道・歩道除雪延長

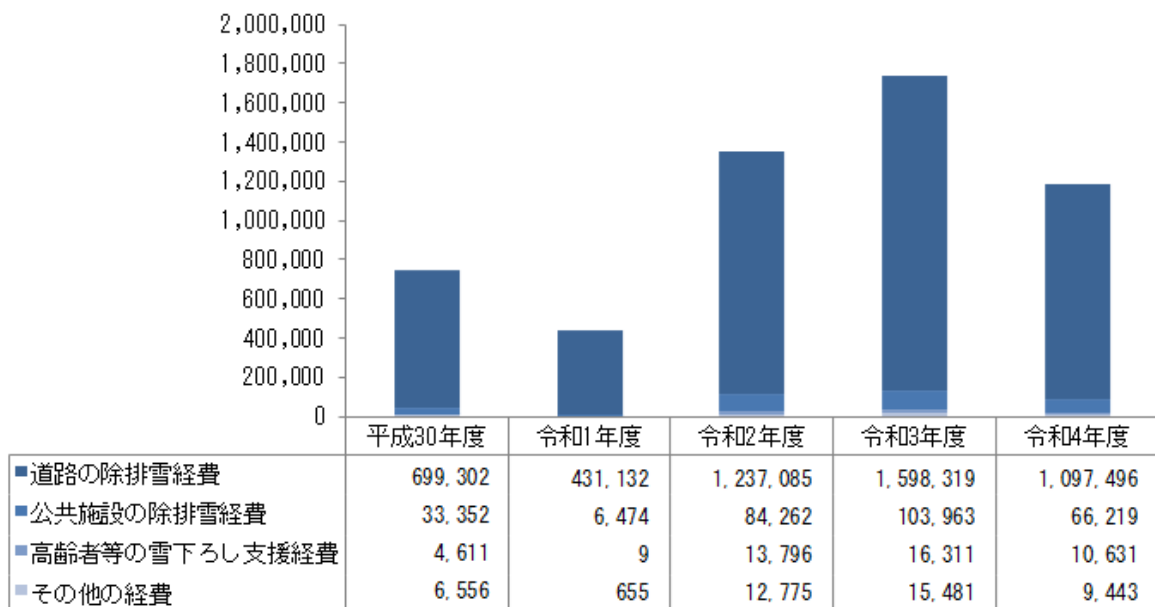
車道・歩道ともに微増傾向にあります。



【出典】市土木課

○ 除排雪対策経費決算額

積雪状況により大きく変動します。



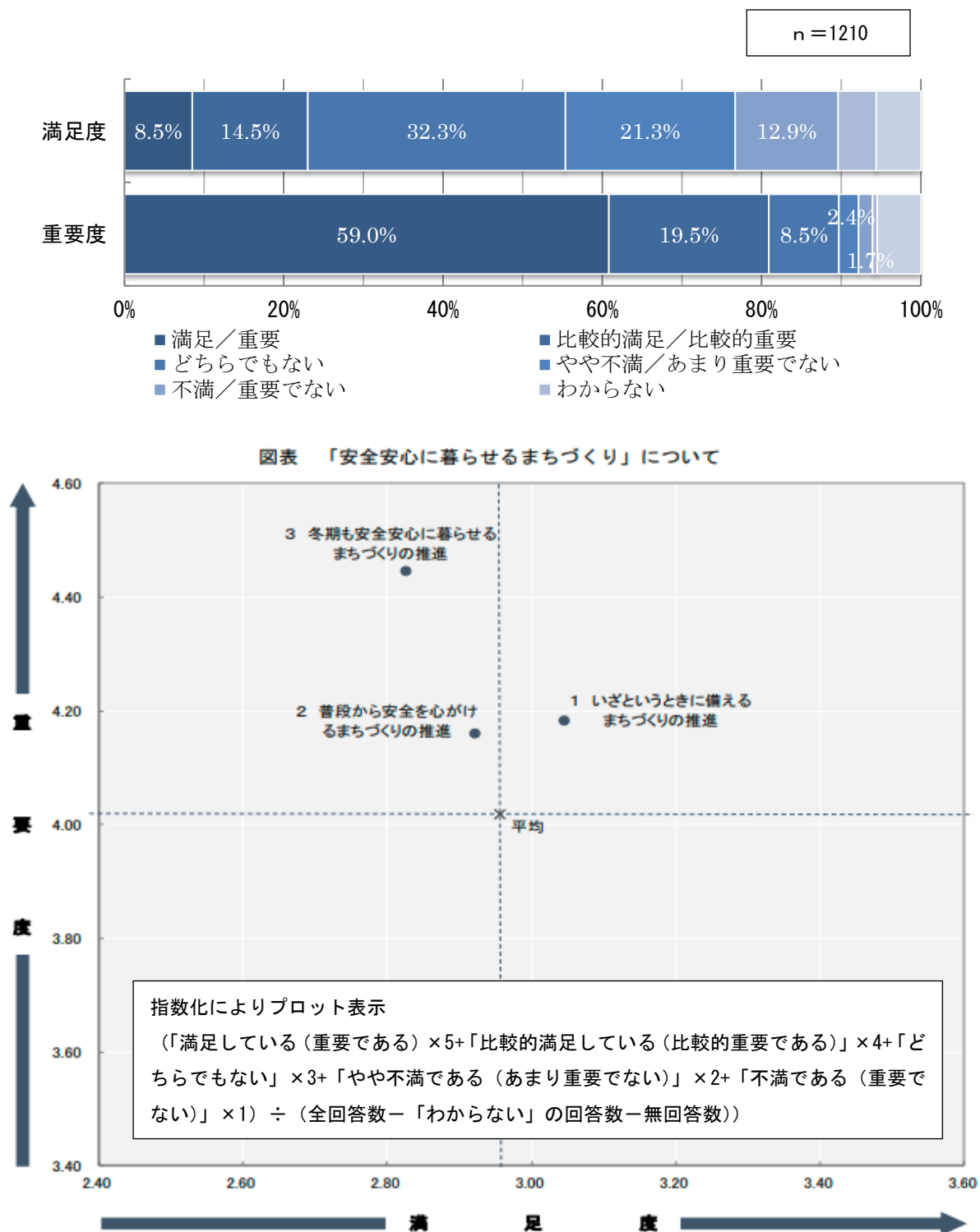
【出典】市財政課「除排雪対策経費決算額」

※投資的経費（重機等機械購入費、防雪柵設置費等）を含まない

※その他の経費：高齢者等除雪支援員派遣経費、生活保護除雪費支援経費など

○ 市民アンケート調査結果

市の個別の施策に関する「満足度」及び「重要度」を調査したところ、冬期も安全安心に暮らせるまちづくりの推進（雪対策）については重要度が高い一方、満足度が低い状況です。



【出典】米沢市まちづくり総合計画の基本計画改定に向けたアンケート調査

集計結果報告書（市民）（令和2年1月）

資料2 米沢市雪対策総合計画検討委員会

○ 米沢市雪対策総合計画検討委員会設置要項

(設置)

第1条 米沢市の雪対策に関する総合的な計画（以下「計画」という。）の見直しについて必要な検討を行うため、米沢市雪対策総合計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、市長に意見を述べるものとする。

- (1) 計画の見直しに関する事項
- (2) その他計画の見直しのために必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員14人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) その他市長が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2条に規定する意見を取りまとめた日までとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、委員があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が召集し、会議の議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者に会議への出席を求め、又は関係者から意見若しくは説明を聴取し、若しくは資料の提出を求めることができる。

(補助組織)

第8条 委員長は、第2条各号に掲げる事項の推進に関し必要な事項を検討させるため、内部ワーキング委員会を置くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画調整部地域振興課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要項は、令和5年2月20日から施行する。

○ 米沢市雪対策総合計画検討委員会委員名簿

任期：令和５年６月８日～審議終了まで

(五十音順 敬称略)

No.	氏 名	所属・役職等	備 考
1	数 見 等	置賜広域行政事務組合消防本部 消防次長兼米沢消防署長	
2	金 子 利 貞	山形県建設業協会米沢支部事務長	副委員長
3	上 浦 浩 輝	社会福祉法人米沢市社会福祉協議会 地域福祉係長	
4	小 泉 玲 子	一般社団法人米沢観光コンベンション 協会理事 女性部会長	
5	齋 藤 定 雄	米沢市身体障がい者福祉協会会長	
6	佐 藤 哲	米沢市小中学校長会会長 (興譲小学校校長)	
7	関 谷 知 樹	米沢市地区委員会副委員長	
8	高 橋 里 佳	米沢警察署警備課警備係長	
9	土 田 一 成	米沢地区交通安全協会会長	
10	新 関 民 代	米沢市民生委員児童委員連合協議会理事	
11	樋 口 健 志	国立大学法人山形大学工学部 化学・バイオ工学科助教	委員長
12	我 妻 弘 一	米沢商工会議所建設部会常任委員 (我妻建設工業㈱代表取締役)	
13	我 妻 康 次	米沢市コミュニティセンター館長会会長 (南原コミュニティセンター館長)	
14	渡 部 高 久	山形県置賜総合支庁建設部道路計画課 道路管理主幹	

※本委員会の女性委員割合 21.4% (3名/14名)

本市では、米沢市男女共同参画基本計画に基づく各種審議会等の女性委員割合を令和8年度までに40%にする目標を掲げ取り組んでいます。

○ 検討委員会開催経過

回	開催日	概要
第1回	令和5年6月8日	・米沢市雪対策総合計画について(中間見直しの趣旨説明) ・市民アンケート結果報告について ・意見交換
第2回	令和5年7月10日	・米沢市雪対策総合計画の達成・進捗状況の確認について ・米沢市雪対策総合計画の見直し方針について ・意見交換(見直し方針の検討)
第3回	令和5年8月10日	・米沢市雪対策総合計画改定版(案)について ・意見交換 ・パブリック・コメントの実施について
第4回	令和5年10月12日(予定)	・パブリック・コメントの結果報告について ・米沢市雪対策総合計画改定版(案)について

資料3 アンケート調査結果

○ アンケート概要及び結果

1 調査対象

市内に住む18歳以上の男女 1,000名
令和4年12月1日現在の住民基本台帳から年齢階層別に無作為で抽出

2 調査方法 協力のお願いと調査票を郵送

無記名郵送又はやまがたe申請により回収

3 調査期間

令和5年2月1日～令和5年2月24日

4 回収状況

回答者数473人（回収率47.3%）
＊郵送370件、やまがたe申請103件

5 調査結果

別添「米沢市雪対策に関するアンケート集計結果」のとおり

6 考察

問1 属性

住基による人口分布等に近い回答状況となったことから、概ね市民全体の意見を反映していると考えられる。

傾向として、「2世代世帯以上」で「一戸建て」に住み、居住年数が長く、主に「自家用車」を利用しているという回答者が多い結果となった。

問2 家庭における雪処理の状況について

除雪、雪下ろし共に、「自分又は同居の家族」で行っているという状況にある。これは、高齢者のみの世帯でも状況は変わらない。

問3 冬期間において不安に思ったり問題だと感じたりすることについて

「交差点などの見通しが悪い」、「道路除雪が悪く車が走りにくい」という回答が多く、次いで「押雪の処理が大変」、「地吹雪で視界が悪くなる」という回答も多い。

年齢が上がるほど、不安に思ったり問題だと感じたりする割合が高くなる傾向がみられる。

問4 除排雪経費の額について

「わからない」という回答が多いが、回答者の道路除排雪への満足度に応じて感じ方が異なる傾向にある。

問5 道路等の除排雪について

道路、歩道共に「満足していない」という割合が高い。

問6 除排雪に関する満足度を高めるために優先すべきことについて

「道路のデコボコやわだちの解消」、「道路幅の確保」、「見通しの確保」といった路面等への対策や、「押雪の軽減」を優先的に取り組むべきという声が多い。

問7 本市が行っている雪に関する制度について

高齢者を対象とする助成事業については認知度が高い傾向を示したが、実際に利用したことがある割合は少なかった。利用できる方が限られているので利用したくてもできない、手続きが面倒との意見も見受けられた。

一方、町内会や除排雪協力会などを対象とした制度については、一般的な認知度はあまり高くない結果となった。

また、重点を置くべき制度の設問では、「高齢者等除雪援助員派遣事業」と「高齢者等雪下ろし助成事業」を合わせて4割を超え、高齢者等の支援を望む声は他の項目よりも高かった。

問8 地域での除排雪活動について（R5 新規）

「これまでに行ったことはない」が6割を超え、「自分が参加している・家族が参加している」は約2割であった。

「住民同士で除排雪に関する課題を話し合う機会がありますか」については、7割以上が「ない」と答えており、地域の中で支え合って除排雪活動を行うには、「地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行うことが必要」との意見が多かった。

問9 高齢者や障がいのある方への除雪支援活動について

除雪ボランティアについて、「あることを知っている」と回答した方は半数を超えているが、実際に「利用したことがある」と答えた方は少数で、「既に参加している」と答えた方もとかなり低い割合となっている。

一方、除雪ボランティアを「必要があれば利用したいと思う」と答えた方は、全体の半数を超える結果であった。また、除雪ボランティアの活動について「機会があれば参加したい」と回答した方は、年齢により大きな差異は見られないが、年齢が高くなるほど「参加することができない」と回答する割合が高くなる傾向がみられ、「参加したいと思わない」と「参加することができない」の合計は7割を超える結果となった。

問10 これから取り組んでいくべきことについて

世代を問わず「高齢者や障がい者などに対する支援体制の強化」が全体の6割近くを占め、最も高い回答率となった。次いで「雪に強い地域づくりへの支援」が5割近くを占め、他の項目よりも高い伸び率を示している。

高齢者等が不安に思っている除雪（押雪を含む）や雪下ろしに関する支援について、現行制度の拡充や、地域コミュニティ内での助け合い、ボランティアの活用など、新たな施策の検討が必要と思われる。

一方、消融雪に関する技術開発や雪をエネルギーとして利用することなどに関する意見も多く、新たな技術や利雪等による冬期間の負担軽減など、前向きな施策も望まれていることが推察された。

R5米沢市雪対策に関するアンケート集計結果

調査日時	令和5年2月1日～令和5年2月24日
調査対象	市内に住む18歳以上の男女1,000人
回答者数	473人(前回比 +79人)
回収率	47.9%(前回比 +7.9pt)

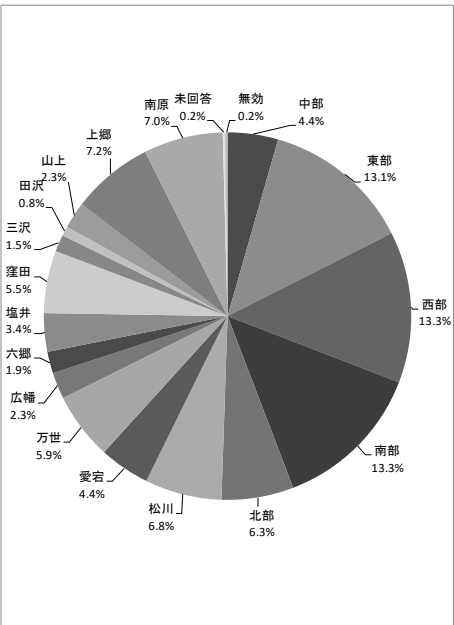
H29アンケート
平成28年12月27日～平成29年1月31日
1,000人
394人
39.4%

【補足事項】
・簡略化のため、図表の一部でアンケートとは異なる表現をしています。
・表中の数値は回答者数を表しています。
・図中のパーセンテージは、合計で100%にならない場合があります。

問1 属性
問1-1. お住まいの地区

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	中部	21	4.4%	14	3.6%	+0.8%
2	東部	62	13.1%	62	15.7%	-2.6%
3	西部	63	13.3%	48	12.2%	+1.1%
4	南部	63	13.3%	36	9.1%	+4.2%
5	北部	30	6.3%	42	10.7%	-4.4%
6	松川	32	6.8%	22	5.6%	+1.2%
7	愛宕	21	4.4%	18	4.6%	-0.2%
8	万世	28	5.9%	24	6.1%	-0.2%
9	広幡	11	2.3%	5	1.3%	+1.0%
10	六郷	9	1.9%	4	1.0%	+0.9%
11	塩井	16	3.4%	9	2.3%	+1.1%
12	窪田	26	5.5%	35	8.9%	-3.4%
13	三沢	7	1.5%	8	2.0%	-0.5%
14	田沢	4	0.8%	3	0.8%	0.0%
15	山上	11	2.3%	3	0.8%	+1.5%
16	上郷	34	7.2%	27	6.9%	+0.3%
17	南原	33	7.0%	30	7.6%	-0.6%
未回答	未回答	1	0.2%	3	0.8%	-0.6%
無効	無効	1	0.2%	1	0.3%	-0.1%
計		473		394		

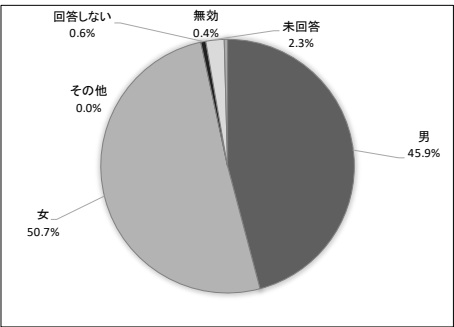
全住民基本台帳の地区ごとの人口割合(令和4年12月1日現在)と比較し、実際の地域人口比率とは異なるものの、地域人口の分布傾向は実際の分布に近いものとなっていることから、特定の地域の意見が強く反映されたものではなく、概ね市全体の意見を反映していると考えられる。



問1-2. 性別

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	男	217	45.9%	167	42.4%	+3.5%
2	女	240	50.7%	215	54.6%	-3.9%
3	その他	0	0.0%		0.0%	0.0%
4	回答しない	3	0.6%		0.0%	+0.6%
未回答	未回答	11	2.3%	11	2.8%	-0.5%
無効	無効	2	0.4%	1	0.3%	+0.1%
計		473		394		

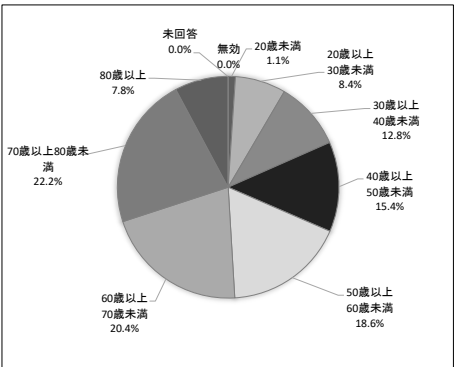
住民基本台帳の男女別人口割合(男性49.1%、女性50.9% 令和4年12月1日現在)と比較すると男性の比率が3.2ポイント少なく、女性はほぼ同数。全体の調査結果は、女性の意向がやや強めに反映していると考えられる。
平成29年アンケートと比較すると、男性の回答率が上がり(+3.5ポイント)、逆に女性の回答率が下がる(△3.9ポイント)結果となった。



問1-3. 年齢

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	20歳未満	5	1.1%	11	2.8%	-1.7%
2	20歳以上30歳未満	35	7.4%	32	8.1%	-0.7%
3	30歳以上40歳未満	47	9.9%	51	12.9%	-3.0%
4	40歳以上50歳未満	62	13.1%	61	15.5%	-2.4%
5	50歳以上60歳未満	83	17.5%	73	18.5%	-1.0%
6	60歳以上70歳未満	99	20.9%	82	20.8%	+0.1%
7	70歳以上80歳未満	105	22.2%	82	20.8%	+1.4%
8	80歳以上	37	7.8%		0.0%	+7.8%
未回答	未回答	0	0.0%	1	0.3%	-0.3%
無効	無効	0	0.0%	1	0.3%	-0.3%
計		473		394		

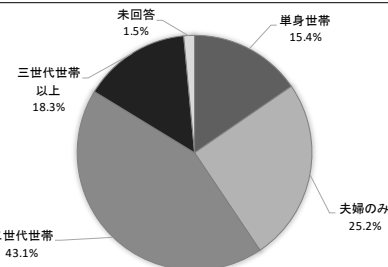
住民基本台帳の年齢別人口集計の構成比(令和4年12月1日現在)と比べると、「20歳以上30歳未満」が少なく(△4.4ポイント)、逆に「70歳以上80歳未満」の回答率が多い(+4.9ポイント)という結果が得られた。全体として、年齢の高い方(50歳以上)の回答率が高い傾向にあり、これは平成29年アンケートと同様の結果となった。



問1-4. 家族構成

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	単身世帯	73	15.4%	43	10.9%	+4.5%
2	夫婦のみ	119	25.2%	83	21.1%	+4.1%
3	二世帯世帯	204	43.1%	189	48.0%	-4.9%
4	三世帯世帯以上	70	14.8%	71	18.0%	-3.2%
未回答	未回答	7	1.5%	8	2.0%	-0.5%
無効	無効	0	0.0%	0	0.0%	0.0
計	計	473		394		

最も多いのが「二世帯世帯」で全体の4割強を占め、「単身世帯」と「夫婦のみ」の合計も全体の4割を占めている。年齢別に見ると、「単身世帯」では60歳代及び70歳代(それぞれ16件、21.9%)、「夫婦のみ」では70歳代(38件、31.9%)の割合が最も高かった。また、60歳以上の高齢者のみの世帯(単身・夫婦のみ)は119件あり、全体の1/4(25.2%)を占めるといった結果が得られ、平成29年アンケートと比較して6.4ポイント上昇している。



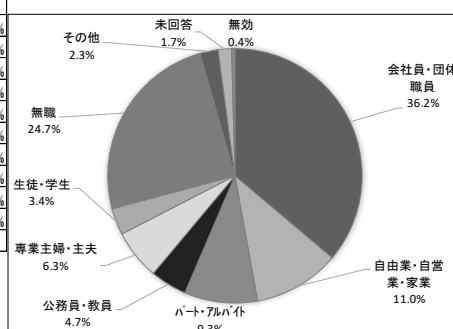
問1-5. 職業

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	会社員・団体職員	171	36.2%	121	30.7%	+5.5%
2	自由業・自営業・家業	52	11.0%	42	10.7%	+0.3%
3	パート・アルバイト	44	9.3%	43	10.9%	-1.6%
4	公務員・教員	22	4.7%	18	4.6%	+0.1%
5	専業主婦・主夫	30	6.3%	30	7.6%	-1.3%
6	生徒・学生	16	3.4%	16	4.1%	-0.7%
7	無職	117	24.7%	114	28.9%	-4.2%
8	その他	11	2.3%	4	1.0%	+1.3%
未回答	未回答	8	1.7%	5	1.3%	+0.4%
無効	無効	2	0.4%	1	0.3%	+0.1%
計	計	473		394		

その他

製造業など1〜7に分類できないもの

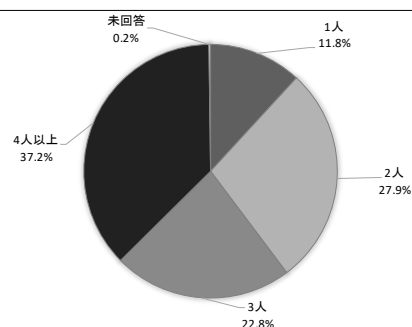
「会社員・団体職員」が36.2%、次いで「無職」が24.7%を占めた。年齢別にみると、「無職」と回答した117件のうち105件(89.7%)が60歳以上という結果が得られ、平成29年アンケートと比較して2.9ポイント上昇している。



問1-6. 世帯人数

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	1人	56	11.8%	30	7.6%	+4.2%
2	2人	132	27.9%	95	24.1%	+3.8%
3	3人	108	22.8%	99	25.1%	-2.3%
4	4人以上	176	37.2%	168	42.6%	-5.4%
未回答	未回答	1	0.2%	2	0.5%	-0.3%
無効	無効	0	0.0%	0	0.0%	0.0
計	計	473		394		

最も多いのが「4人以上」で、全体の4割近を占め、次いで「2人」「3人」の順で割合が多くなっている。平成29年アンケートと比較して、「4人以上」「3人以上」の割合が減少する一方で、「1人」「2人」割合が上昇している。



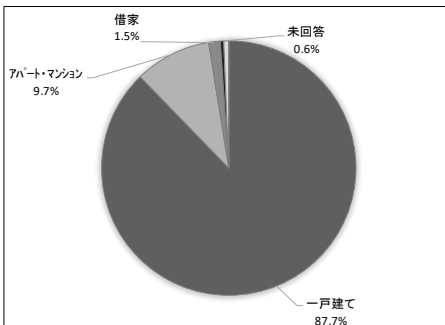
問1-7. 住居

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	一戸建て	415	87.7%	339	86.0%	+1.7%
2	アパート・マンション	46	9.7%	44	11.2%	-1.5%
3	借家	7	1.5%	0	0.0%	+1.5%
4	その他	2	0.4%	9	2.3%	-1.9%
未回答	未回答	3	0.6%	1	0.3%	+0.3%
無効	無効	0	0.0%	1	0.3%	-0.3%
計	計	473		394		

その他

公営住宅 など

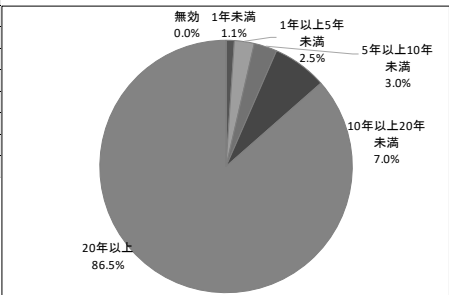
「一戸建て」という回答が最も多く、全体の約9割を占め、「アパート・マンション」という回答は約1割となっている。年齢別に見ると、年齢が高いほど「一戸建て」の割合が高くなる傾向があるが、「アパート・マンション」については大きな差異が見られない。「一戸建て」という回答のうち、60歳以上で「単身世帯」又は「夫婦のみ」という回答は105件で全体の22.2%を占め、平成29年アンケートと比較して5.7ポイント上昇している。



問1-8. 米沢市での居住年数

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	1年未満	5	1.1%	6	1.5%	-0.4%
2	1年以上5年未満	12	2.5%	21	5.3%	-2.8%
3	5年以上10年未満	14	3.0%	13	3.3%	-0.3%
4	10年以上20年未満	33	7.0%	37	9.4%	-2.4%
5	20年以上	409	86.5%	313	79.4%	+7.1%
未回答		0	0.0%	3	0.8%	-0.8%
無効		0	0.0%	1	0.3%	-0.3%
計		473		394		

「20年以上」という回答が9割近くを占め、次いで「10年以上20年未満」が1割弱を占めた。全体として、居住年数が長い方からの回答が多かった。
住居別に見ると、「一戸建て」のうち89.9%、「アパート・マンション」のうち65.2%が「20年以上」という結果であり、平成29年アンケートと比較して、ともに20年以上の居住者の割合が増加している。

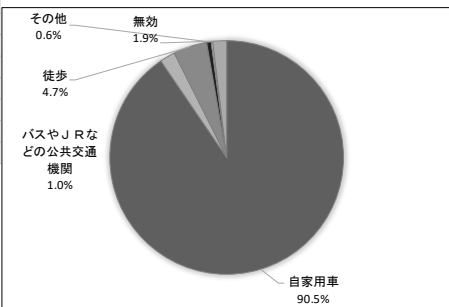


問1-9. 冬期間に最も利用する交通機関

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	自家用車	428	90.5%	341	86.5%	+4.0%
2	バスやJRなどの公共交通機関	10	2.1%	4	1.0%	+1.1%
3	徒歩	22	4.7%	24	6.1%	-1.4%
4	その他	3	0.6%	24	6.1%	-5.5%
未回答		1	0.2%	0	0.0%	+0.2%
無効		9	1.9%	1	0.3%	+1.6%
計		473		394		

その他
乗せてもらう など

冬期間は「自家用車」を利用するという回答が9割を超えている。年齢別に見ても、すべての年齢層で「自家用車」を利用するという回答の割合が最も多いが、「20歳以上30歳未満」については、全回答35件中9件（25.7%）が「徒歩」という結果だった。「自家用車」の利用は、平成29年アンケートと比較して4.0ポイント上昇している。



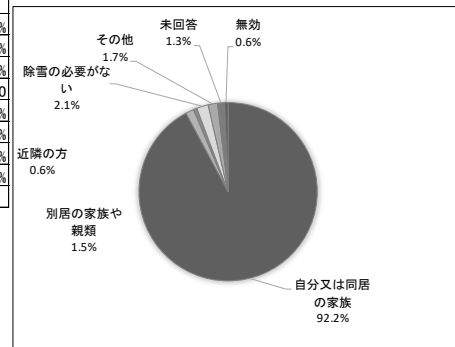
問2 家庭における雪処理の状況

問2-1. あなたのご家庭で、主に除雪を行っているのはどなたですか。

		R5.2アンケート	H29.1アンケート	差
1	自分又は同居の家族	436 92.2%	372 94.4%	-2.2%
2	別居の家族や親類	7 1.5%	3 0.8%	+0.7%
3	近隣の方	3 0.6%	3 0.8%	-0.2%
4	除雪ボランティア	0 0.0%	0 0.0%	0.0%
5	除雪の必要がない	10 2.1%	4 1.0%	+1.1%
6	その他	8 1.7%	10 2.5%	-0.8%
未回答	未回答	6 1.3%	1 0.3%	+1.0%
無効	無効	3 0.6%	1 0.3%	+0.3%
計	計	473	394	

その他

業者、大家、マンション管理人 など



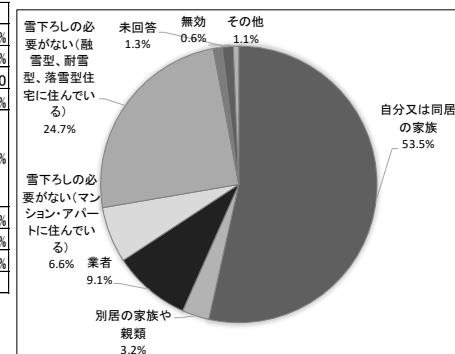
「自分又は同居の家族」の回答が9割を超えており、除雪については、世帯内で実施している状況が伺える。「自分又は同居の家族」という回答436件のうち、「70歳以上」が124件28.4%あり、その中で「1人世帯」という回答は15件3.4%あった。平成29年アンケートと比較して、ともに割合が上昇している。また、主に「除雪ボランティア」が除雪を行っているという回答はなかった。

問2-2. あなたのご家庭で、主に雪下ろしを行っているのはどなたですか。

		R5.2アンケート	H29.1アンケート	差
1	自分又は同居の家族	253 53.5%	235 59.6%	-6.1%
2	別居の家族や親類	15 3.2%	6 1.5%	+1.7%
3	近隣の方	0 0.0%	0 0.0%	0.0%
4	業者	43 9.1%	34 8.6%	+0.5%
5	雪下ろしの必要がない(マンション・アパートに住んでいる)	31 6.6%	103 26.1%	+5.2%
6	雪下ろしの必要がない(融雪型、耐雪型、落雪型住宅に住んでいる)	117 24.7%		
7	その他	5 1.1%	15 3.8%	-2.7%
未回答	未回答	6 1.3%	1 0.3%	+1.0%
無効	無効	3 0.6%	0 0.0%	+0.6%
計	計	473	394	

その他

従業員 など



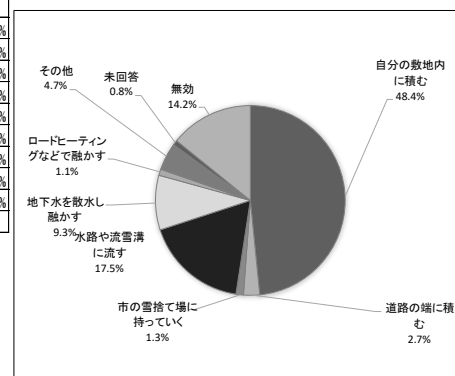
「自分又は同居の家族」という回答が全体の半数以上を占め、次いで「雪降ろしの必要がない」という回答が全体の3割を占めた。住居区分が「一戸建て」という回答の中でみると、「自分又は同居の家族」の割合(58.1%)が4.6ポイント上がる。また、60歳以上の高齢者のみの世帯(単身世帯・夫婦のみ)119件中59件(49.6%)が「自分又は同居の家族」という回答だった。平成29年アンケートと比較すると、割合に若干の変動はあるものの大きな変化は見られない。

問2-3. あなたのご家庭で、除雪や雪下ろしで発生した雪を、主にどのように処理していますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

		R5.2アンケート	H29.1アンケート	差
1	自分の敷地内に積む	229 48.4%	149 37.8%	+10.6%
2	道路の端に積む	13 2.7%	16 4.1%	-1.4%
3	市の雪捨て場に持っていく	6 1.3%	9 2.3%	-1.0%
4	水路や流雪溝に流す	83 17.5%	98 24.9%	-7.4%
5	地下水を散水し融かす	44 9.3%	65 16.5%	-7.2%
6	ロードヒーティングなどで融かす	5 1.1%	3 0.8%	+0.3%
7	その他	22 4.7%	39 9.9%	-5.2%
未回答	未回答	4 0.8%	15 3.8%	-3.0%
無効	無効	67 14.2%		+14.2%
計	計	473	394	

その他

隣地(田や畑、空き地)に捨てて、融雪機で処理する など



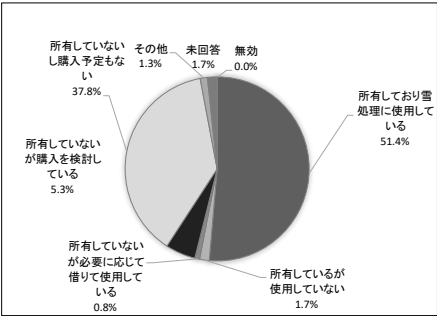
「自分の敷地内に積む」が約5割を占め、「水路や流雪溝に流す」「地下水を散水し融かす」が続いており、平成29年アンケートと同じ傾向を示している。住居別に見ると、「自分の敷地内に積む」が「一戸建て」で49.2%、「アパート・マンション」で41.3%と最も高い割合を占めた。

問2-4. あなたのご家庭における、家庭用小型除雪機などの除雪機械の所有状況等についてお聞きます。当てはまるもの一つに○をつけてください。

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	所有しており雪処理に使用している	243	51.4%	178	45.2%	+6.2%
2	所有しているが使用していない	8	1.7%	8	2.0%	-0.3%
3	所有していないが必要に応じて借りて使用している	4	0.8%	7	1.8%	-1.0%
4	る	25	5.3%	7	1.8%	+3.5%
5	所有していないし購入予定もない	179	37.8%	171	43.4%	-5.6%
6	その他	6	1.3%	6	1.5%	-0.2%
未回答	未回答	8	1.7%	15	3.8%	-2.1%
無効	無効	0	0.0%	2	0.5%	-0.5%
計	計	473		394		

その他

トラクターを使用、所有したいが雪を飛ばせる場所がない など



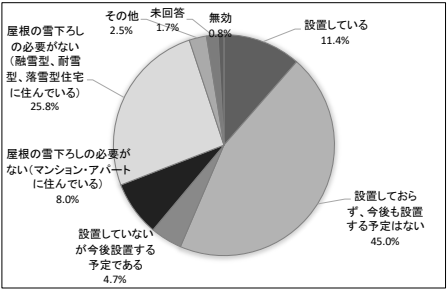
「所有しており雪処理に使用している」が51.4%と5割を超え、「所有していないし購入予定もない」の37.8%を13.6ポイント上回った。住居別に見ると、「一戸建て」では「所有しており雪処理に使用している」が57.6%を占め、半数以上の家庭で家庭用小型除雪機を利用しているという結果だった。平成29年アンケート51.9%と比較すると、家庭用小型除雪機の所有率が5.7ポイント上がっている。

問2-5. あなたのご自宅における、命綱固定アンカー（命綱の一端を固定するために住宅の屋根などに設置された金具）の設置状況について教えてください。

R5新規		R5.2アンケート		H29.1アンケート	
1	設置している	54	11.4%		
2	設置しておらず、今後も設置する予定はない	213	45.0%		
3	設置していないが今後設置する予定である	22	4.7%		
4	屋根の雪下ろしの必要がない（マンション・アパートに住んでいる）	38	8.0%		
5	屋根の雪下ろしの必要がない（融雪型、耐雪型、落雪型住宅に住んでいる）	122	25.8%		
6	その他	12	2.5%		
未回答	未回答	8	1.7%		
無効	無効	4	0.8%		
計	計	473			

その他

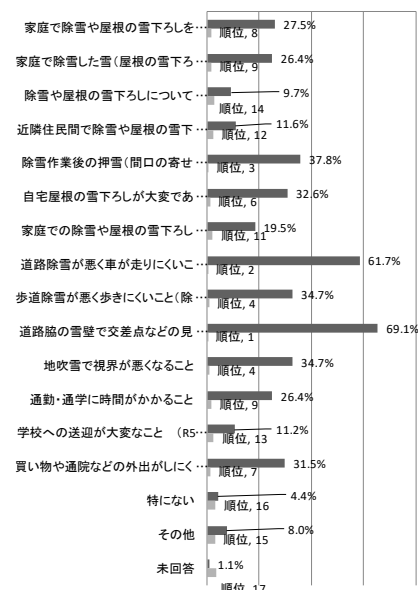
命綱固定アンカーとはどういうもの？、設置されているか分からない、設置するかは未定 など



「設置しておらず、今後も設置する予定はない」が45.0%と約半数を占め、「設置している」の11.4%を大きく上回った。「命綱固定アンカーとはどういうもの？」という回答もみられ、安全に対する意識が低い結果となった。

問3 冬期間において、あなたが不安に思ったり問題だと感じたりすること(複数回答あり)

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	家庭で除雪や屋根の雪下ろしをする 人手が不足していること	130	27.5%	99	25.1%	+2.4%
2	家庭で除雪した雪(屋根の雪下ろし によるものを含む)を捨てる場所が 不足していること	125	26.4%	108	27.4%	-1.0%
3	除雪や屋根の雪下ろしについて近隣 とのトラブルがあること	46	9.7%	46	11.7%	-2.0%
4	近隣住民間で除雪や屋根の雪下ろ しに関する支援体制が整っていない こと	55	11.6%	29	7.4%	+4.2%
5	除雪作業後の押雪(間口の寄せ雪) の処理が大変であること	179	37.8%	136	34.5%	+3.3%
6	自宅屋根の雪下ろしが大変であるこ と	154	32.6%	126	32.0%	+0.6%
7	家庭での除雪や屋根の雪下ろし等 の費用がかさむこと	92	19.5%	54	13.7%	+5.8%
8	道路除雪が悪く車が走りにくいこと (路面のデコボコやわだち、道幅が 狭いなど)	292	61.7%	212	53.8%	+7.9%
9	歩道除雪が悪く歩きにくいこと(除雪 されていない、滑りやすいなど)	164	34.7%	126	32.0%	+2.7%
10	道路脇の雪壁で交差点などの見通 しが悪くなること	327	69.1%	216	54.8%	+14.3%
11	地吹雪で視界が悪くなること	164	34.7%	115	29.2%	+5.5%
12	通勤・通学に時間がかかること	125	26.4%	115	29.2%	-2.8%
13	学校への送迎が大変なこと (R5新 規)	53	11.2%			
14	買い物や通院などの外出がしにくい こと	149	31.5%	103	26.1%	+5.4%
15	特にない	21	4.4%	19	4.8%	-0.4%
16	その他	38	8.0%	34	8.6%	-0.6%
未回答	未回答	5	1.1%	10	2.5%	-1.4%
回答者数	回答者数	473		394		



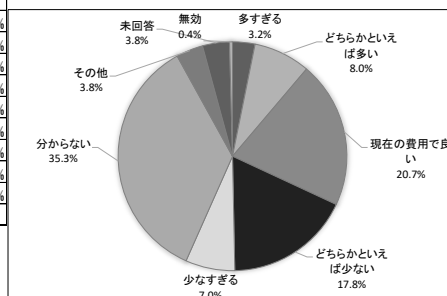
その他の内容

- ・市道除雪への意見 14件 ・流雪溝・水路 4件 ・安全安心(空き家の屋根雪) 1
- ・その他 19件 (除雪マナー 3件、将来への不安 4件、除雪作業員の高齢化 1件、一人親支援 1件、出張留守時に除雪ができない不安 1件、ロードヒーティング電気代が大変 1件、 天気が悪いときは外出しない 1件、その他を選択したが記載なし 7件)

「道路脇の雪壁で交差点などの見通しが悪くなること」と「道路除雪が悪く車が走りにくいこと(路面のデコボコやわだち、道幅が狭いなど)」という回答が全体の6割を超え、平成29年アンケートよりも高い割合となった。他にも、「除雪作業後の押雪(間口の寄せ雪)の処理が大変であること」「自宅屋根の雪下ろしが大変であること」「歩道除雪が悪く歩きにくいこと(除雪されていない、滑りやすいなど)」「地吹雪で視界が悪くなること」「買い物や通院などの外出がしにくいこと」という回答が全体の3割を超え、不安に思ったり問題だと感じる内容に大きな変化は見られなかった。

問4 除排雪経費の額

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	多すぎる	15	3.2%	9	2.3%	+0.9%
2	どちらかといえば多い	38	8.0%	42	10.7%	-2.7%
3	現在の費用で良い	98	20.7%	89	22.6%	-1.9%
4	どちらかといえば少ない	84	17.8%	62	15.7%	+2.1%
5	少なすぎる	33	7.0%	17	4.3%	+2.7%
6	分からない	167	35.3%	135	34.3%	+1.0%
7	その他	18	3.8%	18	4.6%	-0.8%
未回答	未回答	18	3.8%	21	5.3%	-1.5%
無効	無効	2	0.4%	1	0.3%	+0.1%
計	計	473		394		



その他の内容

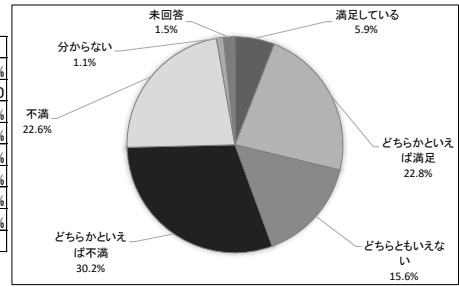
- ・多い(もっと効率的に除雪したほうが良い、お金かけているわりに除雪が下手すぎ など 5件)
- ・適正(その年によって増減は必要、金額は多すぎないが重要なのは除雪の仕方、生活に支障がでないよう積雪量に合わせた経費額であれば良い など 7件)
- ・分からない(比べる所がない、降雪度合いによるので、費用だけを見て適切かどうか分かるわけがない など 5件)
- ・未回答 1件

最も多い回答は「分からない」で、全体の3分の1以上の35.3%を占めた。それ以外の回答では、「現在の費用で良い」が20.7%、少ない(「少なすぎる」・「どちらかといえば少ない」)が24.8%、多い(「多すぎる」・「どちらかといえば多い」)が11.2%という結果だった。道路等の除排雪への満足度(問5)との関係を見ると、「満足」としている方は「現在の費用で良い」、「不満」としている方は「どちらかといえば少ない」とする傾向があった。

問5 道路等の除排雪について

問5-1. 道路の除排雪に満足していますか。

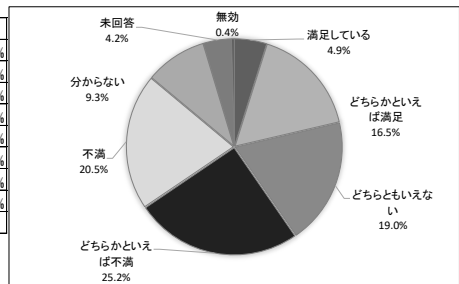
		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	満足している	28	5.9%	22	5.6%	+0.3%
2	どちらかといえば満足	108	22.8%	90	22.8%	0.0%
3	どちらともいえない	74	15.6%	87	22.1%	-6.5%
4	どちらかといえば不満	143	30.2%	105	26.6%	+3.6%
5	不満	107	22.6%	72	18.3%	+4.3%
6	分からない	5	1.1%	4	1.0%	+0.1%
未回答	未回答	7	1.5%	14	3.6%	-2.1%
無効	無効	1	0.2%	0	0.0%	+0.2%
計	計	473		394		



「不満」と「どちらかといえば不満」を合わせると52.8%となり、平成29年アンケートと比較して7.9ポイント上昇した。一方「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると28.7%となり、全体の4分の1以上は現状に満足しているという結果で、平成29年アンケートと比較してほぼ同じ割合であった。これを年齢別に見ると、60代の「不満」の割合が最も高く(21.5%)、年齢が上がるに従って満足しているが上がる傾向にあった。

問5-2. 歩道の除排雪に満足していますか。

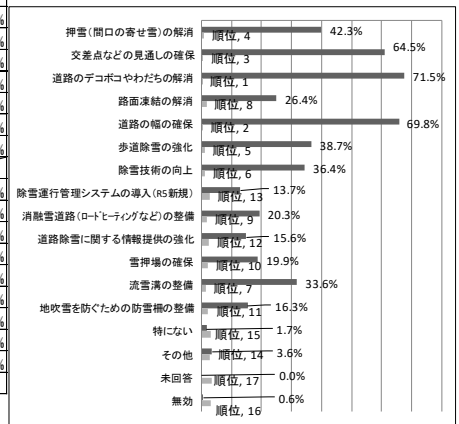
		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	満足している	23	4.9%	8	2.0%	+2.9%
2	どちらかといえば満足	78	16.5%	64	16.2%	+0.3%
3	どちらともいえない	90	19.0%	90	22.8%	-3.8%
4	どちらかといえば不満	119	25.2%	105	26.6%	-1.4%
5	不満	97	20.5%	76	19.3%	+1.2%
6	分からない	44	9.3%	35	8.9%	+0.4%
未回答	未回答	20	4.2%	15	3.8%	+0.4%
無効	無効	2	0.4%	1	0.3%	+0.1%
計	計	473		394		



「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせると45.7%となり、全体の半数近くを占める。一方「満足している」と「どちらかといえば満足」を合わせると21.4%となり、道路の除排雪に比べて、満足度が低いという結果だった。これを年代別に見ると、年齢が下がるほど、満足度が下がる傾向にあった。また、「冬期間に最も利用する交通機関別」を見ると、「徒歩」の満足度がかなり低い傾向にあった。全体的にみて、平成29年アンケートとほぼ同様の結果であった。

問6 除排雪に関する満足度を高めるために優先すべきこと(複数回答あり)

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	押雪(間口の寄せ雪)の解消	200	42.3%	166	42.1%	+0.2%
2	交差点などの見通しの確保	305	64.5%	185	47.0%	+17.5%
3	道路のデコボコやわだちの解消	338	71.5%	241	61.2%	+10.3%
4	路面凍結の解消	125	26.4%	133	33.8%	-7.4%
5	道路の幅の確保	330	69.8%	208	52.8%	+17.0%
6	歩道除雪の強化	183	38.7%	142	36.0%	+2.7%
7	除雪技術の向上	172	36.4%	142	36.0%	+0.4%
8	除雪運行管理システムの導入(R5新規)	65	13.7%			
9	消融雪道路(ロードヒーティングなど)の整備	96	20.3%	97	24.6%	-4.3%
10	道路除雪に関する情報提供の強化	74	15.6%	32	8.1%	+7.5%
11	雪押場の確保	94	19.9%	65	16.5%	+3.4%
12	流雪溝の整備	159	33.6%	129	32.7%	+0.9%
13	地吹雪を防ぐための防雪柵の整備	77	16.3%	51	12.9%	+3.4%
14	特になし	8	1.7%	1	0.3%	+1.4%
15	その他	17	3.6%	10	2.5%	+1.1%
未回答	未回答	0	0.0%	13	3.3%	-3.3%
無効	無効	3	0.6%		0.0%	+0.6%
回答者数	回答者数	473		394		



その他の内容

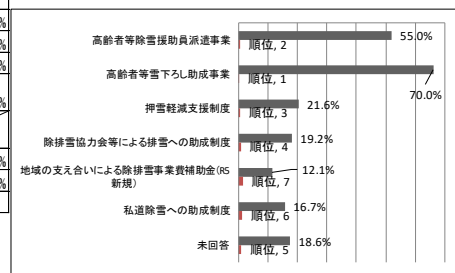
- ・除雪の時間帯(来るのが遅い)
- ・圧雪を残さない除雪
- ・除雪した後の排雪(交差点等の幅員確保)
- ・雪壁の解消(高さを一定にしてほしい)
- ・国、県、市道や除雪業者の受け持ち区間の境目の段差解消(業者間の連携を図ってほしい)
- ・通学路の安全確保 など

「道路のデコボコやわだちの解消」「道路の幅の確保」「交差点などの見通しの確保」「道路除雪に関する情報提供の強化」が、平成29年アンケートよりもかなり高い割合を示すなど、道路の除排雪に関連する項目の割合が高い結果となり、「冬期間に最も利用する交通機関別」で「自家用車」と回答した方では、さらに高い割合を示した。一方、「押雪(間口の寄せ雪)の解消」、「流雪溝の整備」については、一戸建ての家庭の回答率が高くなる傾向にあった。

問7 本市の制度について

問7-1. 本市が行っている次の制度のうち、知っているもの全てに○をつけてください。(複数回答あり)

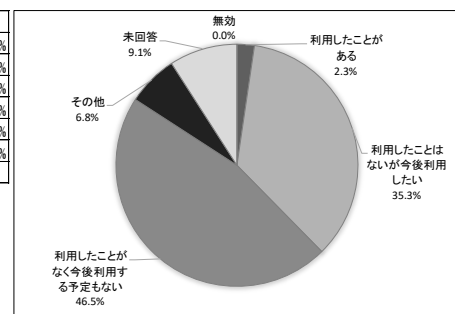
		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	高齢者等除雪援助員派遣事業	260	55.0%	192	48.7%	+6.3%
2	高齢者等雪下ろし助成事業	331	70.0%	257	65.2%	+4.8%
3	押雪軽減支援制度	102	21.6%	40	10.2%	+11.4%
4	除排雪協力会等による排雪への助成制度	91	19.2%	110	27.9%	-8.7%
5	地域の支え合いによる除排雪事業費補助金(R5新規)	57	12.1%			
6	私道除雪への助成制度	79	16.7%	80	20.3%	-3.6%
未回答	未回答	88	18.6%		0.0%	+18.6%
回答者数	回答者数	473		394		



「高齢者等雪下ろし助成事業」については70.0%が「知っている」と回答し、次に多い「高齢者等除雪援助員派遣事業」を含めて、高齢者に対する制度の認知度は平成29年アンケートより高い結果だった。一方、町内会や除排雪協力会などを対象としたそれ以外の制度については、一般的な認知度はあまり高い結果となった。全体的に、年齢が高くなるほど認知度は高くなる傾向にあった。

問7-2. 「高齢者等除雪援助員派遣事業」について当てはまるもの一つに○をつけてください。

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	利用したことがある	11	2.3%	5	1.3%	+1.0%
2	利用したことはないが今後利用したい	167	35.3%	127	32.2%	+3.1%
3	利用したことがなく今後利用する予定もない	220	46.5%	195	49.5%	-3.0%
4	その他	32	6.8%	19	4.8%	+2.0%
未回答	未回答	43	9.1%	47	11.9%	-2.8%
無効	無効	0	0.0%	1	0.3%	-0.3%
計	計	473		394		



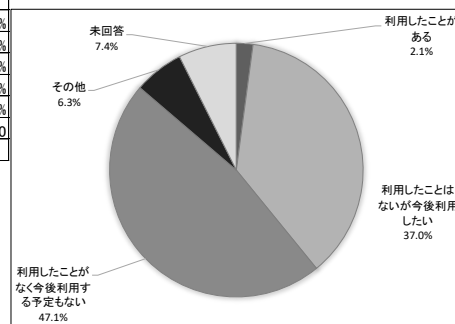
その他の内容

- ・可能な限り自分で、当面は利用しない
- ・利用できる方が限られているので利用したくてもできない
- ・自身が高齢となった時、そのような支援がそれまで続いてるか不安
- ・今回知った
- ・わからない など

「利用したことがなく今後利用する予定もない」という回答が半数近くとなった一方で、「利用したことはないが今後利用したい」という回答が3割を超えるという結果だった。年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「今後利用したい」という回答が多くなる傾向にある。平成29アンケートと比較して、傾向に大きな変化は見られない。

問7-3. 「高齢者等雪下ろし助成事業」について当てはまるもの一つに○をつけてください。

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	利用したことがある	10	2.1%	15	3.8%	-1.7%
2	利用したことはないが今後利用したい	175	37.0%	123	31.2%	+5.8%
3	利用したことがなく今後利用する予定もない	223	47.1%	194	49.2%	-2.1%
4	その他	30	6.3%	18	4.6%	+1.7%
未回答	未回答	35	7.4%	44	11.2%	-3.8%
無効	無効	0	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	計	473		394		



その他 別紙のとおり

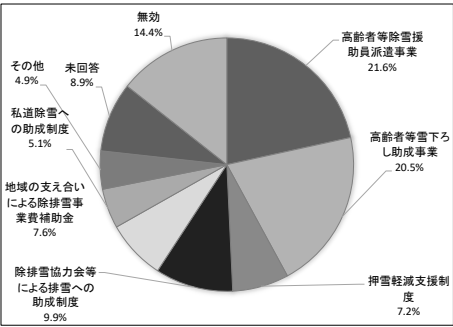
その他の内容

- ・可能な限り自分で、当面は利用しない
- ・利用できる方が限られているので利用したくてもできない
- ・登録はしているが書類が面倒で利用してない
- ・わからない、状況による など

問7-2の「高齢者等除雪援助員派遣事業」とほぼ同じ割合になっている。年齢別に見ると、年齢が高くなるほど「今後利用したい」という回答が多くなる傾向にあり、60歳以上では、「今後利用する予定もない」よりも「今後利用したい」という回答が多い結果であった。

問7-4. 問7-1に記載している6つの制度について、本市では特にどの制度に重点を置くべきだと思いますか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

設問方法の変更		R5.2アンケート		H29.1アンケート
1	高齢者等除雪援助員派遣事業	102	21.6%	制度についての自由意見
2	高齢者等雪下ろし助成事業	97	20.5%	
3	押雪軽減支援制度	34	7.2%	
4	除排雪協力会等による排雪への助成制度	47	9.9%	
5	地域の支え合いによる除排雪事業費補助金	36	7.6%	
6	私道除雪への助成制度	24	5.1%	
7	その他	23	4.9%	
未回答	未回答	42	8.9%	
無効	無効	68	14.4%	
計	計	473		



その他の内容

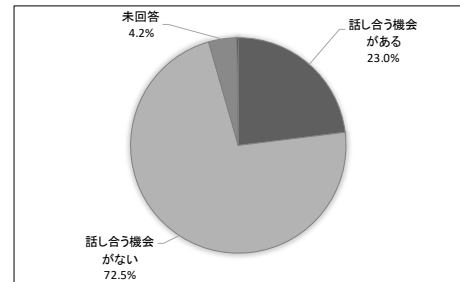
- ・流雪溝の新規拡充
- ・豪雪の米沢でどれも欠けてはいけな制度、1つ選ぶなんて愚問、全てが重点施策だと思う
- ・費用や人的労力がかからない仕組みづくり
- ・助成事業全般が少ない、女性世帯にも雪下ろし助成があればありがたい
- ・排雪のスピードを上げてほしい
- ・制度がある事自体、知らない人が多いので啓発が必要
- ・雪の多い米沢で年老いていく父母を残そうと思えなくなってきた 交通手段も少ない米沢の課題かと思う など

「高齢者等除雪援助員派遣事業」と「高齢者等雪下ろし助成事業」を合わせると4割強を占め、高齢者に対する制度(支援)に重点を置くべきとの意見が多い結果となった。

問8 除雪ボランティアについて（R5新規）

問8-1. お住まいの地域では、住民同士で除排雪に関する課題を話し合う機会がありますか。当てはまるものに○をつけてください。

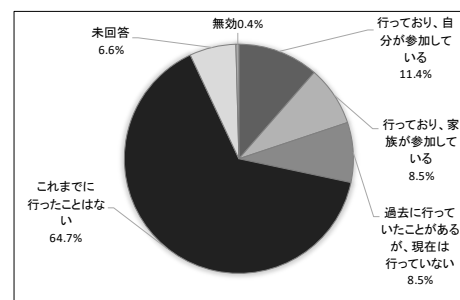
R5新規		R5.2アンケート		H29.1アンケート	
1	話し合う機会がある	109	23.0%		
2	話し合う機会がない	343	72.5%		
未回答	未回答	20	4.2%		
無効	無効	1	0.2%		
計	計	473			



「話し合う機会がない」が7割以上を占め、「話し合う機会がある」の23.0%を大きく上回る結果となった。

問8-2. お住まいの地域では、住民同士で協力して除排雪活動を行っていますか。当てはまるものに○をつけてください。

R5新規		R5.2アンケート		H29.1アンケート	
1	行っており、自分が参加している	54	11.4%		
2	行っており、家族が参加している	40	8.5%		
3	過去に行っていたことがあるが、現在は行っていない	40	8.5%		
4	これまでに行ったことはない	306	64.7%		
未回答	未回答	31	6.6%		
無効	無効	2	0.4%		
計	計	473			

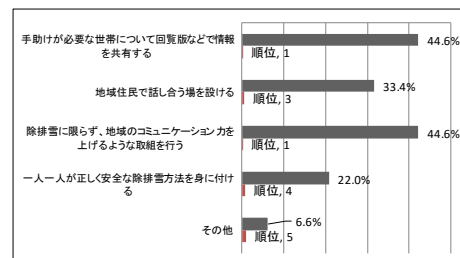


「これまでに行ったことはない」が64.7%を占め、他の項目を大きく上回る結果となった。

問8-3. 自力で除排雪できない高齢者世帯を助けるなど、地域の中で支え合って除排雪活動を行うには、どんなことが必要だと思いますか。

当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数回答あり）

R5新規		R5.2アンケート		H29.1アンケート	
1	手助けが必要な世帯について回覧版などで情報を共有する	211	44.6%		
2	地域住民で話し合う場を設ける	158	33.4%		
3	除排雪に限らず、地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行う	211	44.6%		
4	一人一人が正しく安全な除排雪方法を身に付ける	104	22.0%		
5	その他	31	6.6%		
計	計	473			

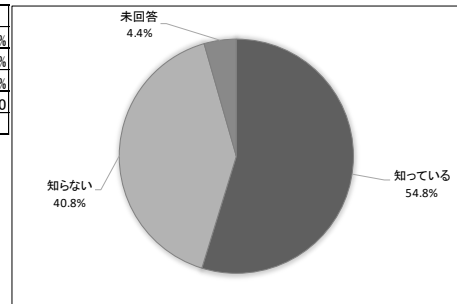


「手助けが必要な世帯について回覧版などで情報を共有する」と「除排雪に限らず、地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行う」がともに44.6%と5割近くを占める結果となった。

問9 高齢者や障がいのある方への除雪支援活動

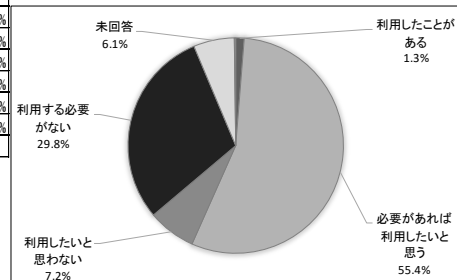
問9-1. 除雪ボランティアがあることを知っていますか。

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	知っている	259	54.8%	255	64.7%	-9.9%
2	知らない	193	40.8%	129	32.7%	+8.1%
	未回答	21	4.4%	10	2.5%	+1.9%
	無効	0	0.0%	0	0.0%	0.0
計	計	473		394		



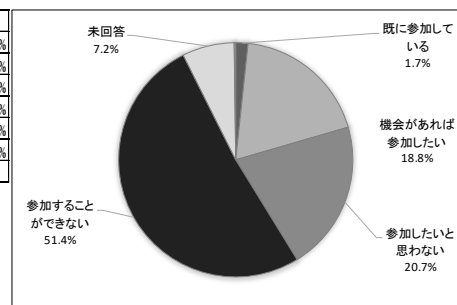
問9-2. 除雪ボランティアを利用したいと思いますか。

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	利用したことがある	6	1.3%	2	0.5%	+0.8%
2	必要があれば利用したいと思う	262	55.4%	212	53.8%	+1.6%
3	利用したいと思わない	34	7.2%	35	8.9%	-1.7%
4	利用する必要がない	141	29.8%	130	33.0%	-3.2%
	未回答	29	6.1%	15	3.8%	+2.3%
	無効	1	0.2%	0	0.0%	+0.2%
計	計	473		394		



問9-3. 除雪ボランティアとして活動してみたいと思いますか。

		R5.2アンケート		H29.1アンケート		差
1	既に参加している	8	1.7%	5	1.3%	+0.4%
2	機会があれば参加したい	89	18.8%	73	18.5%	+0.3%
3	参加したいと思わない	98	20.7%	84	21.3%	-0.6%
4	参加することができない	243	51.4%	206	52.3%	-0.9%
	未回答	34	7.2%	26	6.6%	+0.6%
	無効	1	0.2%	0	0.0%	+0.2%
計	計	473		394		



除雪ボランティアについて、「あることを知っている」と回答した方は54.8%で、平成29年アンケートと比較して9.9ポイント減少している。また、実際に「利用したことがある」と答えた方は全体の1.3%で、「既にに参加している」と答えた方も1.7%とかなり低い割合となっている。一方、除雪ボランティアを「必要があれば利用したいと思う」と答えた方は、全体の半数を超える結果であった。また、除雪ボランティアの活動について「機会があれば参加したい」と回答した方は、年齢により大きな差異は見られないが、年齢が高くなるほど「参加することができない」と回答する割合が増える傾向がみられた。

問10 これから取り組んでいくべきこと(複数回答あり)



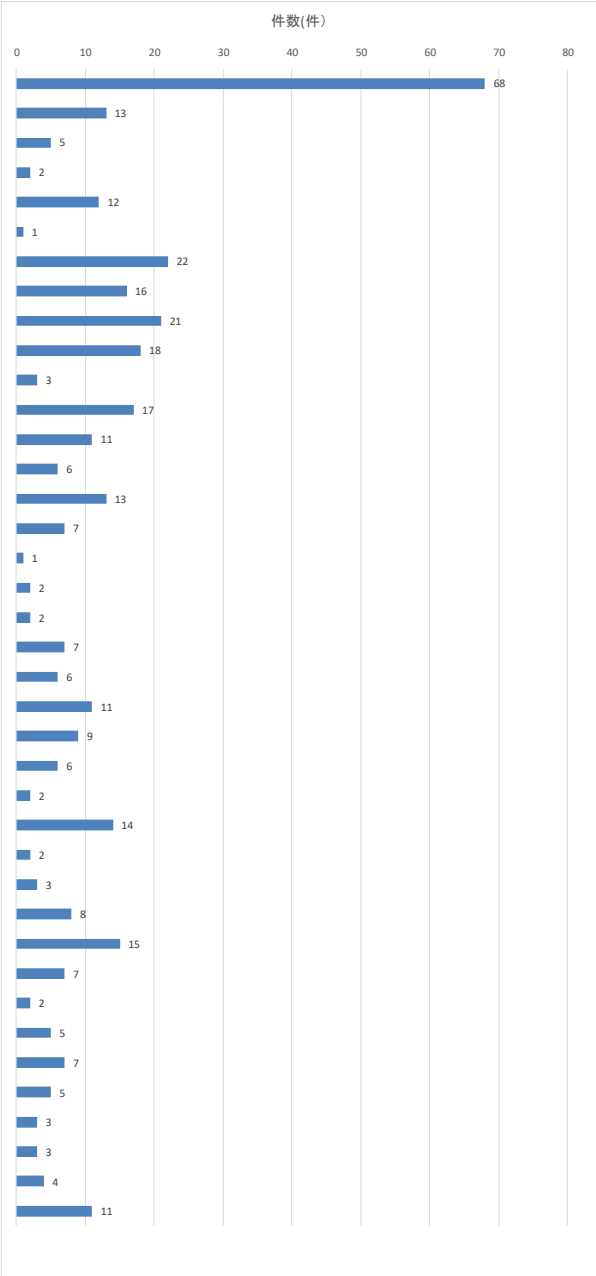
その他の内容

- ・コンパクトシティの推進、冬期間のみ中心部へ移住する仕組みを整える
- ・現行の支援制度は「届出制」だが、声を出せない人が多い高齢独居世帯など行政が手を差し伸べる対応ができるようにしてほしい

「高齢者や障がい者などに対する支援体制の強化」が57.3%と最も多く、全年齢層での回答率が高かった。次いで「雪に強い地域づくりへの支援」が46.7%と続き、平成29年アンケートと比較して12.9ポイント増加し、50歳代からの回答が多かった。全体の3割を超える回答のうち、「消融雪に関する新たな技術の開発」は60歳代から、「雪処理の担い手の確保などのためのボランティア育成」については70歳代からの回答がそれぞれ多い結果を示した。

問11 自由記述（項目別件数）

自由意見 項目別		件数(件)	順位 (位)	割合(%)
除排雪	道路除雪	68	1	18.4
	歩道除雪	13	9	3.5
	除雪の時間帯	5	24	1.4
	道路凍結対策	2	32	0.5
	消雪道路	12	11	3.2
	ロードヒーティング	1	38	0.3
	排雪	22	2	5.9
	押雪	16	6	4.3
	雪壁	21	3	5.7
	除雪技術の向上	18	4	4.9
	除雪業者の指導・教育	3	28	0.8
	流雪溝・水路	17	5	4.6
	雪押場（雪捨て場）	11	12	3
	消融雪	6	21	1.6
支援	高齢者・障がい者支援	13	9	3.5
	雪下ろし支援	7	17	1.9
	ひとり親支援	1	38	0.3
	私道除雪助成	2	32	0.5
	除排雪助成	2	32	0.5
	雪国支援	7	17	1.9
	除雪ボランティア	6	21	1.6
	共助	11	12	3
	情報提供	9	15	2.4
	ルールづくり	6	21	1.6
安全	雪下ろし安全対策	2	32	0.5
	通学の安全	14	8	3.8
	空家対策	2	32	0.5
移住	集合住宅等へ転居	3	28	0.8
	雪がない所へ移住	8	16	2.2
マナー	マナーの徹底	15	7	4.1
	思いやり・意識改革	7	17	1.9
まちづくり	雪に強いまちづくり	2	32	0.5
	雪に強い住まいづくり	5	24	1.4
	雪に強い道路整備	7	17	1.9
その他	観光・イベントの推進	5	24	1.4
	ウィンタースポーツ	3	28	0.8
	雪エネルギー	3	28	0.8
	将来への不安	4	27	1.1
	その他	11	12	3
計		370		100



主な意見

意見数1位 道路除雪について

- ・雪道がガタガタだったりツルツルだったり、道が悪い時すぐ対処してほしい。
- ・もっと道路の除雪をきれいにしてほしい。（道が狭い、雪の壁で危険）
- ・通勤に支障をきたしている。道幅をとにかく毎日確保する除雪をしてほしい。
- ・雪対策については精一杯やられてはいますが、まだまだ除排雪については足りない。
- ・県道と市道の堺の段差を何とかしてほしい。
- ・雪国なのだからもっとお金をかけるべき。

意見数2位 排雪について

- ・除雪だけでなく、排雪に力を入れていただきたい。排雪をすることで押雪の解消や高齢者の除雪がやりやすいと考える。
- ・車がすれ違えなくなっている道路は早めに排雪していただきたい。
- ・路肩の排雪が遅い。

意見数3位 雪壁について

- ・雪壁の高さはせめて歩道を歩いたり除雪している人の姿が見通せるくらいで排雪していただきたい。
- ・十字路の角地に雪が残っていて見通しが悪く危険である。
- ・交差点等の道路の雪壁はなんとかしてほしい。

○ アンケート調査票

米沢市雪対策に関するアンケート用紙

インターネットから回答いただく場合

スマートフォンで QR コードを読み込んでください。
アンケートフォーム(やまがた e 申請)が表示されますので、
回答をご入力の上、送信してください。



郵送で回答いただく場合

この用紙にボールペンで直接記入し、返信用封筒に入れて返送してください。
切手を貼る必要はありません。

問1. 初めにあなたご自身のことについてお聞きます。それぞれの質問について、当てはまるもの一つに○をつけてください。

問 1-1. お住まいの地区			
①中部	②東部	③西部	④南部
⑤北部	⑥松川	⑦愛宕	
⑧万世	⑨広幡	⑩六郷	⑪塩井
⑫窪田	⑬三沢	⑭田沢	
⑮山上	⑯上郷	⑰南原	
問 1-2. 性別			
①男	②女	③その他	④回答しない
問 1-3. 年齢			
①20 歳未満	②20～29 歳	③30～39 歳	
④40～49 歳	⑤50～59 歳	⑥60～69 歳	
⑦70～79 歳	⑧80 歳以上		
問 1-4. 家族構成			
①単身世帯	②夫婦のみ	③二世帯世帯	④三世帯世帯以上
問 1-5. 職業			
①会社員・団体職員	②自由業・自営業・家業	③パート・アルバイト	④公務員・教員
⑤専業主婦・主夫	⑥生徒・学生	⑦無職	⑧その他()
問 1-6. 世帯人数			
①1人	②2人	③3人	④4人以上
問 1-7. 住居			
①一戸建て	②アパート・マンション	③借家	④その他()
問 1-8. 米沢市での居住年数			
①1年未満	②1年以上5年未満	③5年以上 10 年未満	
④10 年以上 20 年未満	⑤20 年以上		
※例:4 年 5 ヶ月の場合は②			
問 1-9. 冬期間に最も利用する交通機関			
①自家用車	②バス・タクシー・JRなどの公共交通機関		
③徒歩	④その他()		

<裏面に続きます>

問 2-1. 主に除雪を行っているのはどなたですか。

①自分又は同居の家族 ②別居の家族や親類 ③近隣の方
④除雪ボランティア ⑤除雪の必要がない
⑥その他()

問 2-2. 主に屋根の雪下ろしを行っているのはどなたですか。

①自分又は同居の家族 ②別居の家族や親類 ③近隣の方
④業者 ⑤雪下ろしの必要がない(マンション・アパートに住んでいる)
⑥雪下ろしの必要がない(融雪型、耐雪型、落雪型住宅に住んでいる)
⑦その他()

問 2-3. 除雪や屋根の雪下ろしで発生した雪は、主にどのように処理していますか。

①自分の敷地内に積む ②道路の端に積む ③市の雪捨て場に持っていく
④水路や流雪溝に流す ⑤地下水を散水し融かす
⑥ロードヒーティングなどで融かす ⑦その他()

問 2-4. 家庭用小型除雪機などの除雪機械の所有状況・購入予定について教えてください。

①所有しており雪処理に使用している ②所有しているが使用していない
③所有していないが必要に応じて借りて使用している ④所有していないが購入を検討している
⑤所有していないし購入予定もない ⑥その他()

問 2-5. あなたのご自宅における、命綱固定アンカー（命綱の一端を固定するために住宅の屋根などに設置された金具）の設置状況について教えてください。

①設置している
②設置しておらず、今後も設置する予定はない
③設置していないが今後設置する予定である
④屋根の雪下ろしの必要がない(マンション・アパートに住んでいる)
⑤屋根の雪下ろしの必要がない(融雪型、耐雪型、落雪型住宅に住んでいる)
⑥その他()

- ①家庭で除雪や屋根の雪下ろしをする人手が不足していること
- ②家庭で除雪した雪(屋根の雪下ろしによるものを含む)を捨てる場所が不足していること
- ③除雪や屋根の雪下ろしについて近隣とのトラブルがあること
- ④近隣住民間で除雪や屋根の雪下ろしに関する支援体制が整っていないこと
- ⑤除雪作業後の押雪(間口の寄せ雪)の処理が大変であること
- ⑥自宅屋根の雪下ろしが大変であること
- ⑦家庭での除雪や屋根の雪下ろし等の費用がかさむこと
- ⑧道路除雪が悪く車が走りにくいこと(路面のデコボコやわだち、道幅が狭いなど)
- ⑨歩道除雪が悪く歩きにくいこと(除雪されていない、滑りやすいなど)
- ⑩道路脇の雪壁で交差点などの見通しが悪くなること
- ⑪地吹雪で視界が悪くなること
- ⑫通勤・通学に時間がかかること
- ⑬学校への送迎が大変なこと
- ⑭買い物や通院などの外出がしにくいこと
- ⑮特にない
- ⑯その他()

当てはまるものの一つに○をつけてください。

- ⑦その他()

(単位:億円)

【参考】累積降雪量(cm)	622	472	154	719	686
---------------	-----	-----	-----	-----	-----

出典:「令和 3 年度米沢市の財政状況」、土木課雪対策関連資料

問5. 道路等の除排雪について、当てはまるもの一つに○をつけてください。

問 5-1. 道路の除排雪に満足していますか。

- ④どちらかといえば不満 ⑤不満 ⑥分からない

問 5-2. 歩道の除排雪に満足していますか。

- ④どちらかといえば不満 ⑤不満 ⑥分からない

取り組む必要があると思いますか。以下の項目から当てはまるもの全てに○をつけてください。

- ⑮その他()

<裏面に続きます>

問7. 本市が行っている雪に関する制度についてお聞きます。それぞれ該当する箇所に○をつけてください。

※制度の概要については、「アンケート調査へのご協力のお願い」の裏面を参照してください。

問 7-1. 本市が行っている次の制度のうち、<u>知っているもの全て</u>に○をつけてください。 ①高齢者等除雪援助員派遣事業 ③押雪軽減支援制度 ⑤地域の支え合いによる除排雪事業費補助金 ②高齢者等雪下ろし助成事業 ④除排雪協力会等による排雪への助成制度 ⑥私道除雪への助成制度	
問 7-2. 「高齢者等除雪援助員派遣事業」について<u>当てはまるもの一つ</u>に○をつけてください。 ①利用したことがある ③利用したことがなく今後利用する予定もない ②利用したことはないが今後利用したい ④その他()	
問 7-3. 「高齢者等雪下ろし助成事業」について<u>当てはまるもの一つ</u>に○をつけてください。 ①利用したことがある ③利用したことがなく今後利用する予定もない ②利用したことはないが今後利用したい ④その他()	
問 7-4. 問 7-1.に記載している6つの制度について、本市では特にどの制度に重点を置くべきだと思いますか。<u>当てはまるもの一つ</u>に○をつけてください。 ①高齢者等除雪援助員派遣事業 ③押雪軽減支援制度 ⑤地域の支え合いによる除排雪事業費補助金 ⑦その他 ②高齢者等雪下ろし助成事業 ④除排雪協力会等による排雪への助成制度 ⑥私道除雪への助成制度 ※ご意見があれば自由にお書きください	

問8.地域での除排雪活動についてお聞きます。それぞれ該当する箇所に○をつけてください。

問 8-1. お住まいの地域では、住民同士で除排雪に関する課題を話し合う機会がありますか。<u>当てはまるもの一つ</u>に○をつけてください。 ①話し合う機会がある ②話し合う機会がない
問 8-2. お住まいの地域では、住民同士で協力して除排雪活動を行っていますか。<u>当てはまるもの一つ</u>に○をつけてください。 ①行っており、自分が参加している ②行っており、家族が参加している ③過去に行っていたことがあるが、現在は行っていない ④これまでに行ったことはない
問 8-3. 自力で除排雪できない高齢者世帯を助けるなど、地域の中で支え合って除排雪活動を行うには、<u>どんなことが必要だ</u>と思いますか。<u>当てはまるもの全て</u>に○をつけてください。 ①手助けが必要な世帯について回覧版などで情報を共有する ②地域住民で話し合う場を設ける ③除排雪に限らず、地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行う ④一人一人が正しく安全な除排雪方法を身に付ける ⑤その他

問 9-1. 除雪ボランティアがあることを知っていますか。	
①知っている	②知らない
問 9-2. 除雪ボランティアを利用したいと思いますか。	
①利用したことがある	②必要があれば利用したいと思う
③利用したいと思わない	④利用する必要がない
問 9-3. 除雪ボランティアとして活動してみたいと思いますか。	
①既に参加している	②機会があれば参加したい
③参加したいと思わない	④参加することができない

- ①雪処理の担い手の確保などのためのボランティア育成
- ②高齢者や障がい者などに対する支援体制の強化
- ③雪に強い地域づくりへの支援
- ④降雪期のルールづくり
- ⑤冬期間における空き家対策
- ⑥雪に強い住まいづくりへの支援
- ⑦除排雪や雪下ろしに関する情報提供の充実
- ⑧雪害に対する未然防止対策の強化
- ⑨克雪のための知識などを学ぶ機会の創出
- ⑩雪を活用した冷熱エネルギー等の利用促進
- ⑪消融雪に関する新たな技術の開発
- ⑫冬期間の観光やイベント等の推進
- ⑬ウインタースポーツの推進
- ⑭その他()



53

米沢市雪対策総合計画

平成30年5月策定

令和5年 月改定

発行：米沢市企画調整部地域振興課
〒992-8501 米沢市金池五丁目2番25号
TEL 0238-22-5111（代表）
